

目次

①青少年海外派遣事業を終えて	1	
②妹都市交流とは？	}	
③浦安の姉妹都市～オランダ市～		}
④浦安市青少年海外派遣事業とは？		
⑤オランダってどんなところ？	3	
⑥平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画	4	
⑦浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項	6	
⑧平成 27 年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿	7	
⑨平成 27 年度浦安市青少年海外派遣生名簿	8	
⑩派遣生紹介		
武井 海薫	9	
武神 優子	10	
八巻 祐香	11	
森本 友	12	
浅野 瑞貴	13	
渡部 友梨香	14	
大西 さくら	15	
野田 周平	16	
上原 瑞葉	17	
東浦 千苗	18	
⑪平成 27 年度浦安市青少年海外派遣生の選考	19	
⑫平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業実績		
事業スケジュール、海外派遣中のスケジュール	20	
事前説明会(保護者参加)、第 1 回事前研修会、第 2 回事前研修会	21	
第 3 回事前研修会	22	
本研修		
3 月 12 日 (土)	23	
3 月 13 日 (日)	24	
3 月 14 日 (月)	26	
3 月 15 日 (火)	27	

3月16日(水)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
3月17日(木)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
3月18日(金),3月19日(土)・・・・・・・・・・・・・・・・	31
事後研修会、報告会・・・・・・・・・・・・・・・・	32

⑬派遣生報告書

ドクターフィリップス高校の授業参加	野田 周平	33
ドクターフィリップス高校の授業参加	浅野 瑞貴	35
Welcome Party	大西 さくら	37
Welcome Party	武井 海薫	38
プリンストン小学校	八巻 祐香	39
プリンストン小学校	東浦 千苗	40
消防署・オーランド市役所訪問	渡部 友梨香	42
消防署・オーランド市役所訪問	上原 瑞葉	44
ヒストリーセンター	武神 優子	46
ケネディスペースセンター	森本 友	47

ホストファミリーとの思い出	武井 海薫	49
	武神 優子	51
	八巻 祐香	52
	森本 友	54
	浅野 瑞貴	56
	渡部 友梨香	58
	大西 さくら	62
	野田 周平	65
	上原 瑞葉	67
	東浦 千苗	69

海外派遣の思い出	武井 海薫	71
	武神 優子	73
	八巻 祐香	74
	森本 友	76
	浅野 瑞貴	79
	渡部 友梨香	81
	大西 さくら	82
	野田 周平	84
	上原 瑞葉	86
	東浦 千苗	88

⑭英語による日本紹介 各グループの発表資料

Group A 武井 海薫、渡部 友梨香、野田 周平	
タイトル「Japanese food」・・・・・・・・・・・・・・・・	90

Group B 武神 優子、森本 友、東浦 千苗	
タイトル「JAPANESE STATIONERY」・・・・・・・・	92

Group C 八巻 祐香、浅野 瑞貴、大西 さくら、上原 瑞葉	
タイトル「JAPANESE TRADITIONAL HOLIDAYS AND EVENTS」・・・・・・・・	95

⑮安市青少年海外派遣事業のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

①平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業を終えて

浦安市青少年海外派遣団長
地域ネットワーク課長 大塚 和則

平成27年度の「浦安市青少年海外派遣事業」も、多くの関係者の皆様と、温かく迎えてくださったオーランド市民の方々のご協力により、無事に終了することができました。

この事業は、姉妹都市交流の一環として平成2年より本市の青少年をオーランド市に派遣し、現地の青少年との交流やホームステイのほか、教育施設や公共施設の見学・体験学習等を通して、国際的視野を広げ、国際社会を担うにふさわしい人間を育成するとともに、親善大使として国際交流の促進を図ることを目的に実施しており、参加者は今回の派遣生を含め287名となっています。

今年度は、派遣生10名、市随行者2名、添乗員1名の計13名で訪問してまいりました。

派遣生は選考委員会の委員が、参加を希望する市内在住の高校生を、面接、作文、英語の試験で選考いたしました。

派遣期間は3月12日から19日までの6泊8日で、派遣までに事前研修を3回、帰国後に事後研修を1回実施いたしました。

お互い初対面で知らない者同士であった派遣生達は、最初は緊張していましたが、事前研修を通じコミュニケーションを取り合う中で次第に打ち解け合い、派遣中はリーダーを中心にチームワークも良く、浦安市の代表としての自覚を持ち積極的に行動していました。

オーランド空港到着時には、長旅の疲れと、緊張の度合いがピークのような派遣生達でしたが、派遣生の名前を掲げ温かく迎えてくれたホストファミリーとの感動的な対面とともに、多くの方々から出迎えを受け、派遣生達の表情は直ぐに満面の笑顔に変わり、現地の皆様との距離が一気に身近になったと感じられた時の様子がとても印象的でした。

オーランド市の方々のホスピタリティに触れたことで、派遣生の心の中には、これまでにない新たな気づきが様々にあったことだと思います。各自がこの派遣を通して、自ら掲げた目標に対し大きな成果を上げることができたのではないのでしょうか。

これからの社会を担って行く派遣生の皆さんには、まだ時間があるからと実践しないのではなく、今、若いこの時だからこそやれること、やらなければならないことに、ぜひ積極的に取り組んで欲しいと思います。

そして、この研修で得た「心の触れ合い」を忘れず、ともに参加した仲間との交流はもちろんのこと、遠く離れたオーランドの家族、友達との交流を続け、それらをステップにさらに大きく羽ばたいて行くことを願っています。

終わりに、この事業にご理解とご協力をいただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

また、報告書に今回の派遣生一人ひとりの報告内容を掲載しておりますので、ぜひご一読いただき、青少年海外派遣事業を通じて大きく成長した派遣生達の様子を感じていただければ幸いです。

②姉妹都市交流とは？

姉妹都市のルーツは米国と言われていました。第2次世界大戦終結後、本当の世界平和をもたらすには市民レベルでの交流が必要だと、米国のアイゼンハワー大統領によって提唱されました。さまざまな国の市民同士が友達になりお互いに理解しあい、協力しあうことが、ひいては国同士の相互理解と協力を結びついていくということが認識されてきたのです。

そしてこの運動の輪は世界中に広まり、本国米国だけでも1,100を超える都市が姉妹都市交流に参加し、日本でも約850の自治体が姉妹都市を持つにいたっています。

姉妹都市交流を通じて、私たちは異なった文化を持つ人々とのふれあいをより身近に体験することができます。この地球上には何千、何万という異なった文化があり、今やそれらは私たちの生活とは決して無縁であるとは言い切れない時代になっています。姉妹都市との交流は、私たちが真の国際人となっていく過程の第一歩であるとも言えるのではないのでしょうか。

②浦安の姉妹都市～オーランド市～

昭和62年から市民の団体「浦安市国際交流協会」により姉妹都市の選定が始まりました。様々な勉強会や議論を経て複数の候補からオーランド市を選定した後、平成元年10月23日にオーランド市で、続いて平成2年1月27日に浦安市で姉妹都市協定の調印式が行われました。平成元年は浦安が村として誕生してから100年目にあたる記念の年であり、提携は浦安誕生100周年を記念する1大イベントとして祝福を受けることになりました。

④浦安市青少年海外派遣事業とは？

浦安市とオーランド市との姉妹都市提携を機に、市民レベルでの交流を促進することを目的として、平成2年より浦安市青少年海外派遣事業が実施されています。浦安市青少年海外派遣事業では、市内在住青少年をオーランドへ派遣し、ホームステイ、現地高校授業体験、市内施設見学、市庁舎訪問など、市民や青少年との交流を図っており、これまで22回、287名を派遣しました。

感受性豊かな時期に、外国の文化や習慣を実際に体験し、様々な交流を持つことで、国際的視野と豊かな国際感覚を身につけてほしいと考えています。

また、青少年交流の他にも、スポーツ交流、学校交流、障がい者交流など様々な分野で交流が行われています。



⑤オーランドってどんなところ？

アメリカ合衆国 フロリダ州オーランド市

位置：西経 81 度、北緯 28 度

オーランド市との時差＝日本時間－14 時間（夏時間の場合は－13 時間）

気候：亜熱帯性気候

年平均気温：22℃

面積：295.3 km²

人口：253,355 人(2014 年 1 月末)

市制施行日：1875 年 7 月 31 日

オーランドは元来、柑橘類などを中心とする農業で栄えた町でしたが、オーランド近郊にケネディ・スペース・センターやディズニー・ワールドができたことにより、オーランドは急速に成長をはじめました。

市近郊には、ディズニー・ワールドのほか、ユニバーサル・オーランド・リゾート、シーワールドなど、いくつものテーマパークがあります。そのほかにも、100 を超えるゴルフ場やリゾートホテルが林立し、多数のショッピングモールもあります。

全米屈指の観光・保養都市として発展している一方、手つかずの自然環境も大切に、「シティー・ビューティフル（美しいまち）」を合言葉に、環境保全・自然保護にも取り組んでいる美しいまちです。

オーランドの位置図



⑥平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画

1. 目的 米国フロリダ州オーランド市との姉妹都市交流事業の一環として本市青少年をオーランド市に派遣し、現地青少年との交流やホームステイ、教育施設などの体験をとおして国際的な視野を広め、国際社会を担うにふさわしい人間を育成するとともに、親善大使として国際交流促進を図る。
2. 主催 浦安市
3. 派遣期間 平成 28 年 3 月 12 日（土）～3 月 19 日（土）6 泊 8 日
4. 派遣先 米国フロリダ州オーランド市
5. 派遣内容 市長表敬訪問、現地青少年との交流、現地高校授業参加、ホストファミリーとの交歓会、ホームステイ、ケネディスペースセンター等の見学
6. 派遣対象 平成 9 年 4 月 2 日から平成 12 年 4 月 1 日までに生まれた市内在住者で、且つ下記の要件を満たすことができる者
 - ①過去に本事業に参加していない者
 - ②心身共に健康で、協調性に富み、派遣計画にしたがって規律ある行動及び団体生活ができる者（派遣生として決定後、健康診断書（自己負担）を提出）
 - ③国際交流活動・地域活動・青少年活動等に関心をもっている者で、帰国後にその成果を積極的に活かせる者
 - ④中学校卒業程度の英語基礎能力があり、簡単な会話ができる者
 - ⑤本人が事前説明会、事前研修会、結団式、事後研修会、報告会に参加できる者
 - ⑥米国フロリダ州オーランド市の高校生が浦安に来訪した際に、ホームステイ受け入れをすること。
 - ⑦市内における国際交流活動に積極的に協力できる者
7. 派遣人数 10 名
8. 募集方法 10 月 1 日号「広報うらやす」及び市 HP（<http://www.city.urayasu.chiba.jp/>）にて 募集
9. 参加費 1 人 金 100,000 円（参加費に含まれるもの：航空運賃、空港使用料、宿泊費、施設入場料、交通費、ツアーガイド料、公式行事中の食事代）
※パスポート申請費用、ESTA 申請費用、旅行保険のオプション追加分は別途自己負担
10. 引率者 3 名(市職員 2 名、専用添乗員 1 名)
11. 選定方法 公募による選定（別途 浦安市青少年海外派遣募集要領参照）
12. 選考方法 選考委員会による選考（別途 浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項参照）
13. スケジュール
●10 月 1 日（木）～10 月 22 日（木）
公募期間

- 10月27日(火) 17:30~19:00 文化会館第1練習室
選考委員会 [主な内容] 趣旨・日程・応募状況・選考基準調整
- 11月1日(日) 9:00~17:00 文化会館
選考会 [主な内容] 選考試験 AM・結果確認及び派遣者決定 PM
- 11月29日(日) 9:30~17:00 国際センター研修室
事前説明会(保護者も参加) AM [主な内容] 事業概要説明・日程確認・必要書類提出
第1回事前研修会 PM [主な内容] 自己紹介・事業スケジュール説明・オランダ概要説明・オランダでの発表グループ分け(高校生の視点から日本/浦安、日本の高校生の文化などの紹介)
- 12月20日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
第2回事前研修会 [主な内容] ホームステイ・アメリカの文化/生活習慣・オランダでの発表ドラフト提出
- H28年2月21日(日) 9:30~15:00 国際センター研修室
第3回事前研修会及びOB・OGとの交流会
[主な内容] 結団式(市長表敬)・オランダでの発表リハーサル・最終確認(パスポート・ESTA・保険・日程等)・ホストファミリー発表、今年度派遣生とOB・OGによる交流会
- H28年3月12日(土)~19日(土)
オランダ派遣
- H28年4月4日(月) 10:00~12:00 国際センター研修室
事後研修会 [主な内容] 作文回収・報告会用パワポ作成の説明
- H28年5月15日(日) 9:30~12:00 国際センター研修室
報告会 [主な内容] 発表予行練習・公開報告会
- H28年6月 報告書作成

⑦浦安市青少年海外派遣選考委員会の設置及び運営に関する要項

(設置)

第1条 浦安市青少年海外派遣実施計画に基づき、海外派遣生の候補者を審査し選考することを目的として、浦安市青少年海外派遣選考委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を行うものとする。

- (1) 青少年海外派遣生の候補者の審査、選考に関すること
- (2) 前号に規定する事項に関し必要と認められるものに関すること

(組織)

第3条 委員会は、7人以内の委員をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げるもののうちから構成する。

- (1) 浦安市市民経済部長
- (2) 浦安市市民経済部次長
- (3) 浦安市こども部次長
- (4) 浦安市教育委員会生涯学習部次長
- (5) 学校法人明海大学からの推薦を受けた者
- (6) 浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者
- (7) 浦安在住外国人会からの推薦を受けた者

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、浦安市青少年海外派遣事業がその目的を達成するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員長は、浦安市市民経済部長をもって充てる。

- 2 委員長は、会務を総理し委員会を代表する。
- 3 委員会に副委員長 1人を置き委員の互選によってこれを定める。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長に事故があるとき、又は委員長及び副委員長が共に欠けたときはあらかじめ委員長が指定した委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員長は委員会の会議を招集しその議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(報告)

第8条 委員会は、選考審査した海外派遣生の候補者を、すみやかに、市長へ報告するものとする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は市長の定める機関において処理する。

(補助)

第10条 この要項に定めるもののほか委員会の運営に関し、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要項は、平成8年4月1日より実施する。

平成13年4月1日一部改正

平成17年3月22日一部改正

平成19年4月1日一部改正

平成26年6月5日一部改正

平成27年9月7日一部改正

⑧平成27年度浦安市青少年海外派遣選考委員名簿

1	浦安市市民経済部長	石川 豪三	委員長
2	浦安市国際交流協会からの推薦を受けた者	浦安市国際交流協会 会長 白木 聖代	副委員長
3	浦安市市民経済部次長	岩島 真也	委員
4	浦安市子ども部次長	岡本 光正	委員
5	浦安市教育委員会 生涯学習部次長	永井 勲	委員
6	学校法人明海大学からの推薦を受けた者	学校法人明海大学 外国語学部 英米語学科 教授 河原 伸一	副委員長
7	浦安在住外国人会からの推薦を受けた者	浦安在住外国人会 アドバイザー 伊勢 佳奈	委員

計7名

⑨平成 27 年度浦安市青少年海外派遣生名簿

	氏名	学年	学校名
1	たけい みか 武 井 海 薫	高 1	私立専修大学松戸高等学校
2	たけがみ ゆうこ 武 神 優 子	高 2	私立中央大学杉並高等学校
3	やまき ゆうか 八 巻 祐 香	高 2	私立市川高等学校
4	もりもと ゆう 森 本 友	高 1	県立船橋高等学校
5	あさの みずき 浅 野 瑞 貴	高 1	私立渋谷教育学園幕張高等学校
6	わたべ ゆりか 渡 部 友梨香	高 3	私立実践女子学園高等学校
7	おおにし さくら 大 西	高 2	私立吉祥女子高等学校
8	のだ しゅうへい 野 田 周 平	高 2	県立八千代高等学校
9	うえはら みずは 上 原 瑞 葉	高 2	私立専修大学松戸高等学校
10	ひがしうら ちなえ 東 浦 千 苗	高 1	私立渋谷教育学園幕張高等学校

〔随行者〕

団 長 大塚 和則 (おおつか かずのり)

随行者 中島 康次 (なかじま こうじ)

専用添乗員 武居 千洋 (たけい ちひろ)

⑩派遣生紹介



氏 名： 武井 海薫

学校・学年： 私立専修大学松戸高校1年

○志望動機

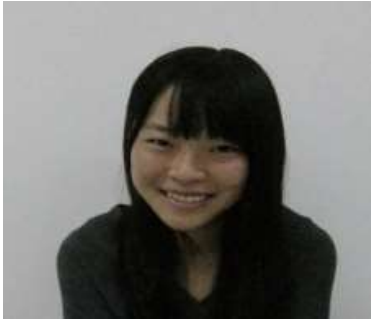
映画や音楽を通じてアメリカの文化にとっても親しみがあつた。4年間学校で英語を学んできた中で、習得した英語を実際に使い積極的にコミュニケーションをとりたいと思うようになったため、今回の派遣に応募した。

○海外派遣で学んだこと

派遣中に現地の人に一番言われたことが、「四年間しか英語を勉強していないのにそんなに話せるの!？」ということだ。フロリダではスペイン語を話している人も大変多く、小さいころから学んでいる子がたくさんいるそうだ。私は、日本語は日本国内だけで話される言語であつて、英語は別にしっかりと学んでいかないと世界の人と話することができないため、不利な環境にいるのではないかと思っていた。しかし、実際には英語を母国語とする人々も一生懸命に他の言語を学んでいると知り、頑張っているのは私たちだけではないのだと気づいた。また、自分の英語にもっと自信を持っていいのだと思った。ホストシスターたちに負けないように勉強に励んでいきたい。

○今後の目標

高校の授業に参加して感じたことが、一つの教室に本当に様々な人種の生徒が集まっているということだ。日本の教室ではまず見られる光景ではなく、その点においてアメリカという国にとっても魅力を感じた。今後ぜひまた戻りたいと思っており、大学に入ったら一年の長期留学にも挑戦したい。将来はこの経験を活かして世界を舞台に活躍することができるよう努力したいと思う。



氏 名： 武神 優子

学校・学年： 私立中央大学杉並高校 2 学年

○志望動機

中学校 3 年間でシンガポールで暮らし将来英語に関わる仕事をしたいと思うようになった。そんな中、高校の交換プログラムに参加しオーストラリアへ行きその思いはより一層強くなった。日本で暮らしている今は英語を使う機会が少ないので、この機会を利用し世界に対して見聞を広めるとともに自分自身の英語力を伸ばしたいと考えたからだ。

○海外派遣で学んだこと

たくさんの経験を通して多くのことを学んだがここでは二つ紹介する。

一つ目に「英語は手段である」ということだ。よく言われていることであるが私は今までこの言葉の意味が漠然としか分かっていなかった。

他国の人とコミュニケーションをとるうえで確かに英語は大切だが、それよりも自分の思いを伝える手段はあるのだと思った。それは一つ一つの態度である。

相手に対して謙虚に向き合って自分の思いを届けたいと思えば、相手もその意図をくみ取ってくれるのだということが私にとっての「英語は手段である」ということだと思った。

二つ目に、私が出会ったアメリカの高校生は将来のビジョンが明確だということだ。

一般的な日本の高校生は「つきたい職業が決まってないからとりあえず優秀な大学に行こう」という考えだと思う。しかし、アメリカでは全授業が選択性であるためか、みな、将来何がしたいか、そのためには何を学ぶべきかを考えていると思った。

初日に「優子は将来なにがしたいの？」と聞かれたときは自信をもって具体的に将来の目標について話すことができなかつた自分が恥ずかしくなつた。この経験がきちんと将来のことを考えるきっかけになつた。

○今後の目標

私の将来の夢は二つある。

一つは英語を使って世界に関わる仕事に就くことである。

具体的には、大学で法律を学び主にインドなどアジア圏における貧困問題を考えていきたいと思っている。

世界の問題を考えるのはいろいろな国の人と仕事をするようになると思う。

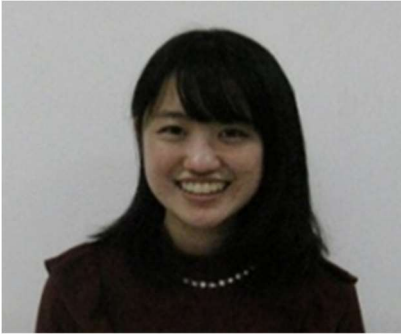
そのためにもまず、「外国語」ではなく「第二母国語」レベルで英語を話せるようになりたい。

二つ目に世界中を旅行していろいろな国の文化を学びたい。

両親がいろいろな国へ旅行に連れて行ってくれたことから、その国の文化や歴史など独自の価値観に興味を持つようになった。

大人になったら自分で旅行に行き、もっと自分の見聞を広げたい。

また、訪れたことのない国だけではなく既に訪ねた国も旅行し、その国の変化も見てみたい。



氏 名： 八巻 祐香

学校・学年： 私立市川学園高校

○志望動機

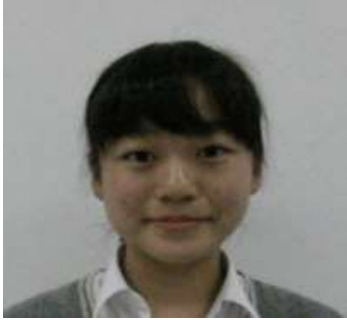
海外に興味があり、また将来国際関係の仕事に就きたいと考えていたので、自分の将来に繋がる何か良いきっかけになると思ったから。

○海外派遣で学んだこと

- 英語が下手でも何とかして伝えようとする姿勢が大事。
- 一生付き合っていける仲間に出会えた。

○今後の目標

今回の派遣でお世話になったホストファミリーや友達と交流を続けていく一方で、さらに範囲を広げ、日本という枠組みを超えて多くの外国の方と関わっていきたい。



氏 名： 森本 友

学校・学年： 県立船橋高校1年

○志望動機

中学生のころから留学や海外での活動に興味を持っていたから。また、私は天体が好きなので、海外派遣の日程にケネディスペースセンターの見学が含まれているのを見て参加したいと思ったから。

○海外派遣で学んだこと

オーランドに1週間いて感じたことは、みんなとても優しくてあたたかいということだ。私のことをみんな快く受け入れてくれて、たくさん話しかけてくれた。

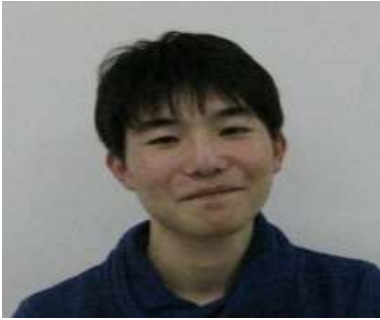
また、私のホストファミリーは近くにいる赤の他人でもすぐに友達になっていたし、困っている人がいたらすぐに気を利かせて動く行動力があり、本当にいい人だった。

日本ではあまり見かけることのない、積極的な優しさがあふれる雰囲気がとても気に入った。

○今後の目標

とにかく自分の英語力を上げて、つぎにホストファミリーにあった時にはもっとコミュニケーションをとれるようにしたい。

そして、さらに留学を重ね、国際的に活躍できるような人になりたいと思う。



氏 名：浅野 瑞貴

学校・学年：私立渋谷教育学園幕張高等学校 1年

○志望動機

自分の身に着けた今の英語力が、どのくらい現地（アメリカ）で通用するのかチャレンジする機会になると考えた。また、アメリカで出会う人たちと会話をしたり一緒に過ごしたりしてコミュニケーションをとる中で、価値観や価値観の違いを知り、自分自身が多角的な視野を持つために生かしたいと考えたから。

○海外派遣で学んだこと

英語を日常の会話で使うというのは、学校で習う英語学習とは全然異なると思った。ホストファミリーと触れ合うとき、例えば楽しい話をするときや失敗をしてしまって申し訳ないときに感情を言葉にする、思った瞬間にぱっ、と伝えたいと思ってもすぐに日本語から英語に変換することは本当に難しかった。日本での英語の勉強は、作業的で感情など(移入できる人もいるかもしれないが)全く考えたことがなかったため、この研修で『生きた英語』に触れる機会が出来て良かったと思う。

オーランド(拡大していえば言えば、『アメリカ』)の事を肌で感じて学び、ホームステイにより家庭の生活を体験出来て密接に触れ合ったことにより、(いい意味で)強烈な思い出の数々と共に文化や雰囲気や学べ、絶対に忘れないと言い切れる経験となった。また、日本との差異を考えさせられる機会が多くあり、日本とは？と改めて考える機会にもなった。

○今後の目標

まず英語の勉強を頑張る。自分の英語力のなさを痛感した。今回のホストファミリー達との出会いを大切に、時間にゆとりのある大学生になったときに、もう一度レベルアップして会いに行きたい。



氏 名： 渡部 友梨香

学校・学年： 私立実践女子学園高等学校 3年

○志望動機

新浦安駅の前で偶然、姉妹都市 20 周年の記念式典を拝見し、オーランド市に興味をもったため。

○海外派遣で学んだこと

実際にそこで現地の人々と過ごすことで、多くの場面でアメリカと日本の違いを知ることが出来たと思う。

ただアメリカに旅行するだけでは見ることが出来なかつたらう景色をこの派遣に参加させて頂いたことで沢山見ることが出来た。

ものの見方や考え方が、沢山の優しく面白くて楽しい人と関わることで、私の中で良い方向に大きく変わったと感じている。

○今後の目標

この派遣で得た経験や知識、そして自信を活かして、アメリカやその他の国と関わる機会があれば、積極的に参加していきたいと思う。

また、この派遣でホストファミリーや学校の友達と話す際に、ただ教科書を使う英語の勉強というより、英語で「会話」することを学ぶ必要性を感じた。だから私は、ホストファミリーや学校で出来た友達と次に会う時まで、滞りなく英語で会話できるように会話をするということを意識しながら英語をしっかりと勉強し、5人や高校で出来た友達を日本で迎えたいと考えている。

私はこの派遣が最高のものだと言いたいことが出来る。感謝という言葉では足りないほど、この派遣のために動いてくれた方、私がこの派遣に関わった方全てに感謝している。いつか自分に子供が出来たら、この派遣に参加させたいと思う。



氏 名： 大西 さくら

学校・学年： 私立吉祥女子高等学校2年

○志望動機

私は以前、アメリカのアリゾナ州に留学していた経験があり、その経験を踏まえてまた違った場所を経験することで、より広くアメリカの文化を理解できるようになりたいと思ったからである。

○海外派遣で学んだこと

今回の海外派遣では多くのことを学んだと思うが、特に私が大きいと思ったのは姉妹都市同士の交流事業の一環として、オーランド市役所やプリンストン小学校などを訪問するなど、普通の旅行では経験できないことを経験できたことである。

○今後の目標

今後は2020年の東京オリンピックなどが日本であるので、そういった行事で何百人何千人のうちの一人にしかなれないとしても、活躍できるようになりたい。

将来、何かしらの形で英語を活かした職に就きたい。

また、海外に留学して、今度は普通に専門分野の授業も難なくこなせるレベルまで自分の英語力を上げられるように頑張りたい。



氏 名： 野田 周平

学校・学年： 県立八千代高校 2 年

○志望動機

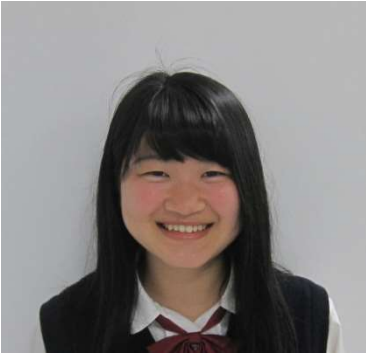
私は外国にとっても興味がある。それは以前アメリカのボストンへ短期留学をした際に日本の常識が世界では常識ではないことを身をもって感じたからだ。日本では察する文化とも言われるように、自分の意見を明確にしなくても自分の意見を汲み取られるが、アメリカでは自分の意見を明確に主張しなければいけない。このような違いは調べて知識として蓄えるのではなく、自分自身の肌で感じたいと思い青少年海外派遣へ応募した。

○海外派遣で学んだこと

アメリカでは家の大きさも学校の教育制度も人格も日本とは全く異なっている。だから、これから先の人生において、日本の中だけで過ごしていただくだけではもったいないと思った。海外にも足を積極的に伸ばして、自分の見聞を広げていくことがこれからのよりグローバル化していく社会において必要不可欠なことだということを強く感じた。

○今後の目標

ホームステイをしたことで自分の英語力の低さ、特にリスニング力のなさを実感した。今後、私はただ単に受験で必要だから英語を勉強するのではなく、自分が将来英語を使いたいから勉強をするという風に認識を変えたいと思う。そして、大学に入学後、交換留学制度を使いたい。



氏 名： 上原 瑞葉

学校・学年： 私立専修大学松戸高校2年

○志望動機

自分の現在の英語力が海外でどのくらい通用するか試してみたいと思ったからです。
また、オーランド市の人や文化に触れることで、自分の視野を広げたいと考えたからです。

○海外派遣で学んだこと

日本の文化との違いを学びました。アメリカの家の様式、食事、学校生活、人と人との関わりあいなど、どれをとっても日本と大きく異なっていました。アメリカの良さ、日本の良さを改めて実感しました。

○今後の目標

もう一度オーランドへ行き、ホストファミリーと会って恩返しをすることが最大の目標です。そのためにもさらなる英語力、日本に関する知識、コミュニケーション能力を身につけるため努力していきたいと思います。



氏 名： 東浦 千苗

学校・学年： 私立渋谷教育学園幕張高等学校 1年

○志望動機

語学の面というよりは、人との交流がたくさんできるという点に惹かれて、この研修に参加したい、と思った。参加ができれば、オーランドの人たちとたくさんコミュニケーションを取り、その中でオーランドの文化や、その地に根付く考え方を学び、また、同時に日本や浦安の文化や考え方も発信したいと考えていた。

○海外派遣で学んだこと

まず、アメリカ、そしてオーランドの考え方や文化が少しだけでも学べたと思います。ホームステイという形で現地での生活を経験できたことにより、現地の方々の生き方から直接学ぶことが多くありました。例えば、学校の授業は日本のものとは内容が同じでも、雰囲気はまるっきり違った。生徒たちは失敗を恐れず、疑問に思ったことはすぐ声に出し、先生に質問していた。先生も、質問があるかどうか、細かく確認し、あれば生徒と一緒に考える、というスタイルを取っていた。失敗を恥ずかしいものだと感じるような環境の日本とは全然違ったのだ。私にはとても新鮮だった。

また、ホストファミリーと過ごす中で、お互いの生活の差と同時に共通点も見つけられ、それをホストシスターと共有できたのは私の中では大きな一歩だった。だが、文化を伝えることのむずかしさを身に染みて感じた。すべてを正確に伝えることはほぼ不可能であるし、かといって部分的にしか伝えられないと、誇張された間違っただけの印象を持たれてしまう可能性もある。今回は自分なりに頑張ったが、それでも伝えきれなかった部分があったのは悔やまれる。

○今後の目標

まずは小さいことであるかもしれないが、ホストファミリーなど、現地で関わった人とのつながりを大事にして、連絡を取り続けたい。

そして、今回の派遣で学んだことを糧に、世界の役に立てる人になれるよう、頑張りたいと思う。

⑪平成 27 年度浦安市青少年海外派遣生の選考

選考委員会について

浦安市青少年海外派遣 第1回選考委員会

日時：平成 27 年 10 月 27 日（火）17：30～

場所：文化会館3階第1練習室

- 内容： 1. 平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業実施計画について
2. 派遣生の応募状況について
3. 選考会について

浦安市青少年海外派遣 選考会

日時：平成 27 年 11 月 1 日（日）9：00～

場所：文化会館3階

大会議室（受付、全体スケジュール説明、Aグループリスニング試験及び作文試験）

第1会議室（Bグループリスニング試験及び作文試験）

第1練習室（面接試験）

第3練習室（スピーキング試験）

- 内容： 1. 受付
2. 日程説明
3. 選考（リスニング、面接、スピーキング、作文）

13：30～

場所：文化会館3階第1練習室

- 内容： 1. 作文の採点
2. 選考会実施結果報告
3. 講評
4. 選考審査

選考の結果について	
公募期間	平成 27 年 10 月 1 日（木）～10 月 22 日（木）
応募者	29 名
選考会参加者	26 名
派遣決定者	10 名

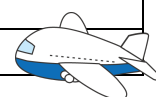
⑫平成 27 年度浦安市青少年海外派遣事業実績

事業スケジュール

平成27年11月29日（日）	事前説明会（保護者参加）及び 第1回事前研修会
平成27年12月20日（日）	第2回事前研修会
平成27年2月21日（日）	第3回事前研修会及びOB・OGとの交流会
平成27年3月12日（土） ～3月19日（土）	★青少年海外派遣★
平成27年4月4日（月）	事後研修会
平成27年5月15日（日）	報告会

海外派遣中のスケジュール

日程	主な内容
3月12日（土）	出発→13:50 オーランド空港着 空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ ※ホームステイ
3月13日（日）	終日ホストファミリーと交流 ※ホームステイ
3月14日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 終日 Dr.Phillips 高校授業参加 Dr.Phillips 高校でのウェルカムパーティー ※ホームステイ
3月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> Dr.Phillips 高校授業参加 市内小学校訪問 エオラ湖見学 オーランド消防署見学 オーランド市役所にて市長及び市議会議員表敬訪問 ヒストリーセンター（歴史博物館）見学 ※ホームステイ
3月16日（水）	<ul style="list-style-type: none"> Dr.Phillips 高校授業参加 ケネディスペースセンター見学 ※ホームステイ
3月17日（木）	<ul style="list-style-type: none"> Dr.Phillips 高校授業参加 ディズニーワールド（アニマルキングダム）見学
3月18日（金）	午前8時50分オーランド空港発の飛行機に乗り日本へ
3月19日（土）	午後6時、浦安市役所到着、解散



事前説明会（保護者参加）

日時：平成 27 年 11 月 29 日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 姉妹都市の紹介
 4. 海外派遣の概要について
 5. 事務説明等
 6. 今後の日程
 7. 質疑応答



第1回事前研修会

日時：平成 27 年 11 月 29 日（日） 13：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 団長挨拶
 2. 自己紹介
 3. 青少年海外派遣事業の概要について
 4. アイスブレイク
 5. 浦安市についての学習
 6. オーランド市についての学習
 7. グループワーク
 8. その他連絡事項



第2回事前研修会

日時：平成 27 年 12 月 20 日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 派遣概要説明
 2. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
 3. その他連絡事項



第3回事前研修会

日時：平成27年2月21日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター 研修室

- 内容：
1. 日程等最終確認
 2. 結団式
 3. 出国にあたっての注意事項等説明
 4. グループワーク（ネイティブスピーカーからの指導）
 5. その他



OB・OGとの交流会

日時：平成27年2月21日（日） 13：00～

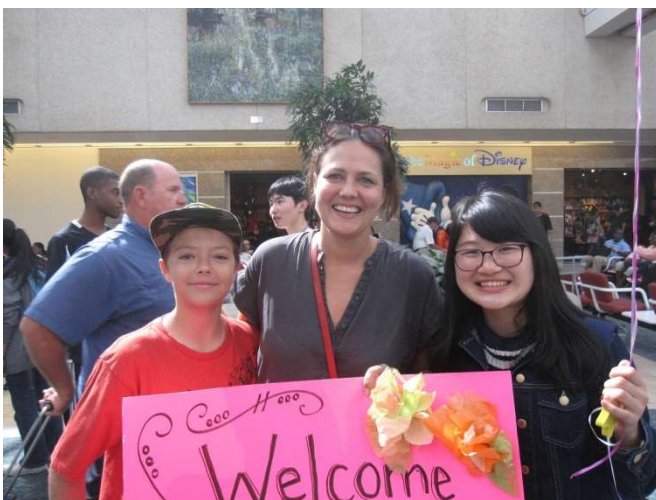
場所：浦安市国際センター 研修室



本研修 平成28年3月12日（土）～3月19日（土）
3月12日（土）
出発→14：00頃にオーランド空港着



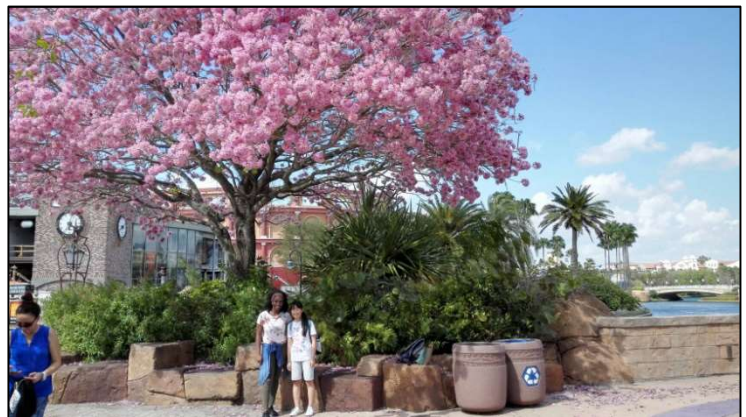
空港にてホストファミリーと合流し、そのまま各家庭へ



3月13日 (日)
終日ホストファミリーと交流



3月13日 (日)
終日ホストファミリーと交流



3月14日(月)
Dr. Phillips 高校授業参加(終日)



Dr. Phillips 高校でのウェルカムパーティー
英語による日本文化紹介



日本文化体験



3月15日(火)

Dr. Phillips 高校授業参加 (1 時限目のみ)



プリンストン小学校訪問



エオラ湖見学



オーランド消防署訪問



オーランド市役所見学



オーランド市長及び市議会議員表敬訪問



ヒストリーセンター（歴史博物館）見学



3月16日（水）

Dr.Phillips 高校授業参加（1 時限目のみ）



ケネディスペースセンター見学



3月17日(木)
Dr. Phillips 高校授業参加(1~2時限目)



ディズニーワールド（アニマルキングダム）見学



3月18日（金）

8：50 オランダ空港発の飛行機に乗り日本へ



3月19日（土）

18：00 浦安市役所到着、解散



事後研修会

日時：平成 28 年 4 月 4 日（月） 10：00～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告書確認
2. 報告会について
3. 写真交換
4. その他



報告会

日時：平成 28 年 5 月 15 日（日） 9：30～

場所：浦安市国際センター研修室

- 内容： 1. 報告会リハーサル 9：30～
2. 報告会 11：00～



⑬ 派遣生報告書

ドクターフィリップス高校の授業参加

野田 周平

ドクターフィリップス高校での授業と私の高校の授業には大きな違いがたくさんあった。

まずアメリカでは 16 歳から普通自動車免許がとれるので家から学校まで自分の自動車で行く人が多い。さらに授業の開始時間が 7:20 と

かなり早いので、朝 6 時台の薄暗い学校に大量の自動車が集まってくるという日本からするとなんとも奇妙な光景が広がる。たくさんの生徒の自動車が集まってくるということなので、もちろん駐車場もとても大きい。他にも授業時間が 48 分と少し微妙な時間だったり、高校の校舎は東京ドーム 2 個弱の大きさのキャンパスをもつにもかかわらず、休憩・移動の時間はたったの 8 分しかなかったりと、とてもハードなスケジュールだった。

私は芸術の歴史、日本語、英語、微分、生物、アメリカの歴史の授業を受けた。この高校では授業が単位制のようでとりたい授業を取っていく形式で、私のホストは学校の中でもかなり頭がいい人のようだったので難しい授業を取っていた。英語が拙い私は当然のことながら英語での専門用語はわからないので、授業はとてつもなく難しく感じた。

また、授業は日本のように毎日変化するのではなく、一週間同じ授業を同じ時間帯に受けていた。派遣中は 1 限目の芸術の歴史だけを受けて、様々な場所の見学に行くことが多かったため、芸術の歴史の先生である barrows(ベローズ)先生とは少しだけ仲良くなった。右の写真が barrows 先生と撮った写真だ。

ドクターフィリップス



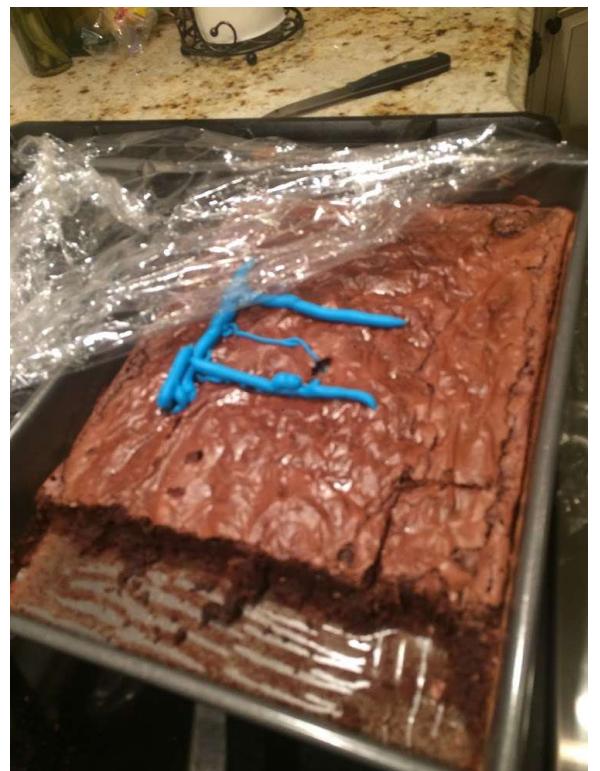
授業は黒板ではなく、パソコンの画面を映し出す装置を使っていてハイテクだった。授業内容もただひたすら先生が生徒に教えるのではなく、時には先生から生徒への質問があったり、生徒から突然質問が飛んだり、日本のように授業中に目立つ行動を避けるような



生徒はいなかった。この部分を私は今後特に見習いたいと思う。他に、授業中に映された画面の写真を撮ったり、授業の音声を録音したりする生徒もいた。

これは、生徒が日本のように予備校に通っている人が多数いるわけではないため学校で宿題が大量にでるので、その対策のようだった。私のホストブラザーも宿題にはとても時間がかかっていて、朝がただでさえ早いのに夜中までやっていた。また宿題だけでなく予習をすることも義務になっているようで、私がホストブラザーのプリントをちらっと見ると、付箋が重要箇所にたくさん貼られているようだった。

日本で3月14日といえば誰もがホワイトデーを思いつくと思うが、アメリカで3月14日というと円周率の3.14にちなんでパイの日といい、食べ物のパイを送り合う日になっている。先生によってはユーモアがあるのか、パイを持ってきた人には成績に追加で点数を与えるということがあったため、たくさんの生徒が様々なパイやお菓子を持参していた。私のホストブラザーもパイではないがブラウニーを作っていた。写真の端っこが切れているのは、完成直後に私とホストブラザーが味見をしたからだ。おいしかった。



日本とアメリカの教育制度は詳しく調べるともっと違う。これは、実際に私がアメリカの高校に行って違いをもっと知りたかったから帰国後に調べたから知ることができた。どちらがいいと言われてもどちらにも良いところと悪いところがある。今回の派遣ではとりあえずたくさん異なる点があるということが知れたのでとてもよかった。

ドクターフィリップス高校の授業参加

浅野 瑞貴

今回の派遣では、4日間授業に参加した。1日目は、全授業に参加し他の日は1時間目のみ又は、プラス2時間目も参加ということでたくさん学校生活を体験することができた。

過ごせば過ごすほど、たくさんの日本とアメリカの高校の違いを感じた。まずそれらの違いをいくつかの観点から記す。

○時間

日本は、8時半くらいから3時過ぎくらいまでの50分×6コマ制が一般的であるが、Dr.Phillips高校では、7時20分から授業が始まり2時15分には授業が終わる。しかも、48分×7コマ制だったのだ。

これは、朝が早いからというだけでなく、休み時間が日本より2分短く8分間、日本の学校のように長い昼休みはなく、食後に広い校庭で遊ぶのかな？と思っていたが、ご飯を食べる時間しかなかった。

○授業

先生一人一人が教室を持ち、生徒は自分の選んだ教科の教室へ毎時間移動していて、日本のように曜日ごとに科目が決まっているのではなく1時間目から7時間目までの科目が決まっていて、1年間毎日同じ科目の授業を受ける。また、一日目のドイツ語の授業では、先生が他クラスでの授業が長引いてその時間全く現れない、というちょっとした事件が起きたが生徒たちはあわてる様子もなく、ゲームをし始めたりお喋りをしたり、歌いだす子が大半で、本（ドイツ語）を読んでいる子は20人くらいの生徒のうちの2人だけだった。



○学校

敷地がとても広く、建築物も大きく、4日間通っていたが全然部屋を覚えられず、一度1人で散歩をしたときには待ち合わせした教室が見つけれず迷子になってしまった。また、各教室の設備が整っていて、ホワイトボードの他に大きな画面のタッチパネルが設置されていてそれで動画を見たり、図を用いて教えていた。芸術クラス専門の建物があったのだが、まるで日本の専門学校であるかのような設備でさらに分野も広く、ドラマやオーケストラから映像制作、ホストブライザーも学んでいたグラフィックアートなど高校生のうちから高度な技術を経験できる環境が整っていた。



他にもたくさんの発見や体験があった。そこから考えたことをまとめる。まず当たり前前のことだが、国が違えば「学校」の在り方も当然違うという事だ。

日本は学校に、社会勉強をする場所という意識があり、クラスでの協調性を求めたり行事などでは積極性、協力など、日本の社会に出た時に求められることつまり、(日本での)一般的な教養を身につける機会が設けられている。

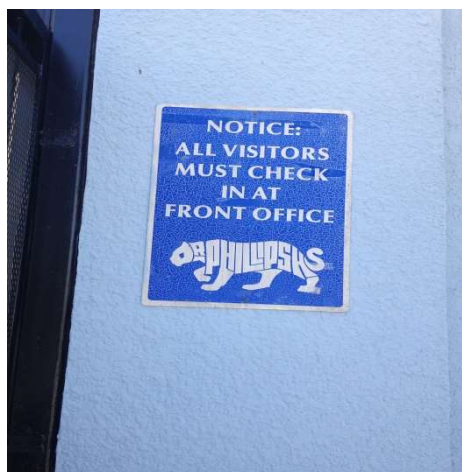
一方アメリカでは、学校はクラブでも授業でもそれぞれが学びたいことを学べる場という意識が背景にあるように感じた。毎日、自分で選んだ同じ科目を学ぶという事は自由が与えられているが、同時に大きな責任も伴う。これを当たり前前のように同世代の人たちが経験するのは、大変なことであるが自主性が身につく、若いうちからそれぞれが自立できているという事もうなずける。

授業中、わいわいとおしゃべりをしていたり、堂々とイヤホンをしてる人がいたりというのは見慣れぬ光景だった。しかし、もちろん真面目に勉強をしている人もいて、放課後まで学校に残って先生に質問しながら勉強をしている姿を見ると、自分も頑張らなくては！という刺激を受けた。

軍隊の訓練のような授業をホストブラザーの Jamarlye が受けていたので僕も参加したが、教官がとても厳しい人で授業も緊張感があり、少しだけなりきった感があり面白かった。日本の学校とは設備も雰囲気も異なる、アメリカの学校形態を知ることが出来た。



朝集まるいつものメンバー！！



←学校名の書いてあるかっこいい標識

Welcome Party

大西 さくら

Welcome Party は今回の派遣事業を総合的に見て、少なくとも私にとっては思い入れのある出来事だった。この行事は事前にやることを知らされていて準備もしていた分、終わったときは皆、いろいろと思うところがあったようだ。

このパーティーでは私たち十人が三班に分かれ、それぞれの班が日本に関することのプレゼンテーションと出し物を考え、事前準備の間の数か月をかけて用意していった。

当日はお世話になっていたドクターフィリップス高校の食堂を借りて、主に私たちを受け入れてくれたホストの方を招待した形で行われた。最初に各班がそれぞれのプレゼンテーションを披露した。A班は日本の食べ物について。B班は日本の文房具について。C班は日本の行事について。私はC班で七夕についての説明を担当した。事前研修で全員集まって練習したのはたったの二回で、各班で集まってもそこまで十分に準備する時間がなかった中、みな自分の担当個所をきちんとこなしていた。笑いを取りに行ったところでもきちんと笑いとれていたり、しぐさなどがかわいいなど見ていた人からも好感をとれたプレゼンテーションができたと思う。

プレゼンテーションが終わった後は、各班の用意した出し物を披露した。私たちC班では割りばしで作った鉄砲を使って射的を行った。簡単そうに見えて意外と的を射るのが難しかったようで、何回も楽しみながら挑戦してくれていた。景品としてアニメのキャラクターのフィギュアを持っていて、自分の好みのフィギュアをとるために何回も挑戦してくれている子もいた。



また筆ペンで名前を書いてあげたのも好評で、普段は見ない日本語の自分の名前の表記を見て写真を撮っている人などもいた。

他の班ではヨーヨーとスーパーボールを用意してスーパーボールすくいをやっていた。スーパーボールは高く跳ねるのが楽しいらしく、とった後に遊んでいる子たちも見かけた。私のシスターもその一人で、家に帰った後は犬に追いかけら

れながら二人でスーパーボールで遊んだりもした。

また、ほかの班はお茶を出していた。これは現地の人には好評で、遅れてきた私のシスターは後で飲めなかったのが残念とまで言ってくれていた。

このパーティーではプレゼンテーションと出し物を通して、楽しみながらも日本の文化をオーランドの人たちに伝えることができたと思うし、日本の文化にもっと興味を持ってもらえたと思う。

Welcome Party

武井 海薫

Welcome Party ではホストファミリーに向けた日本の食べ物、伝統行事、文房具についてのプレゼンテーションと、お茶会とお祭りの出し物を行った。事前研修の中では浦安在住外国人会のパトリツィアさんから、発音や文章についての指導を受けた。当日はそれぞれが分担して日本から持って行った出し物に使うお菓子や道具を、市からホストファミリーへのお土産と間違えて渡してしまう人が出るというアクシデントもあったが、それもうまく乗り越えてとても良いパーティーにできたと思う。

前半のプレゼンテーションはみんなとても熱心に耳を傾けており、私のホストマザーは日本でホームベーカリーが一般的に普及していることにとっても驚いていたようだった。他にも文字に線を引いて携帯のアプリで読み込むと、引いた部分が隠れるようになるペンには感嘆の声が上がり、七五三を紹介するために自分たちの当時の写真を映し出すと、”How cute!” という言葉も上がって、どのグループの発表も楽しんでくれたようだった。

後半の出し物では、お祭りグループがスーパーボールすくいとヨーヨーすくい、割りばし鉄砲でする射的を、私が所属したお茶会グループは茶菓子にきのこの山とたけのこの山、そして氷砂糖を用意して抹茶をふるまった。スーパーボールすくいのポイがとても丈夫で中々破けることがなかったが、それぞれ気に入ったボールやヨーヨーを持って帰り、射的も真剣に取り組んでいた。お茶会では急きょお祭りグループの千苗ちゃんが茶道部ということで加わり、大活躍してくれた。グループのメンバーで千苗ちゃん以外はお茶をたてた経験が無く、派遣の前に瑞葉ちゃんのお母さんが茶道の先生をしているということで一度、一から教えてもらった。抹茶は苦いため口に合うかどうか心配だったが、抹茶ならではの苦みを楽しんでくれたようで、みんな飲み干していった。

私のホストブラザーとシスターは氷砂糖をとっても気に入ったようで、余ったものを袋ごとあげると帰り道で取り合いになっていた。

忙しい中、多くのホストファミリーが家族そろって Welcome Party へ参加し、日本にとっても興味を持って耳を傾けてくれた。私たちも事前研修に加え各自で予定を合わせて集まり練習をしていたため、このように成功させることができてよかったと思う。



プリンストン小学校 八巻 祐香

オーランドに到着して4日目の午前中、私たちは市内の公立の小学校であるプリンストン小学校を訪問した。この小学校は gradeA というランクを貰っていて、施設もかなり充実して広く、日本の小学校とは異なる点も多く素晴らしい環境だった。創立が89年ということで古い歴史的な校舎と調和するように、建物の安全性を考えた綺麗で最新の校舎となっていた。また、生徒の約30パーセントが盲目や目に障害のある子供で点字の授業も行われていて、日本とは違う一面を見ることができた。アメリカでは障害のあることを ”gifted” と呼んでいることに感動した。



この訪問では、最初に数人の小学生と対面し、お菓子やフロリダ産の美味しいオレンジジュースを飲みながら少しの間、会話をした。そしてその後、本格的な機材が備わっているテレビのスタジオのような部屋で、翌朝流す映像の撮影をした。私たちはみんなで声をそろえて “from Urayasu city!” というセリフを言った。カメラマンも編集も監督も合図もすべて小学生がやっていて、後に Julia にもそのことを話してみたところ、”私も小学生のとき似たようなことをやったよ！” と言っていてオーランドの小学生は自立していて、非常に驚いた。

続いて、5人の小学生がわざわざ私たちの為にオズと魔法使いの劇をやってくれた。小学生とは思えないほどのクオリティーの高さで、歌もダンスもセリフを言うのもどれも素晴らしく、みんながそれぞれのキャラクターになりきっていて舞台上で輝く小学生たちが見ていた私たち全員の目に映った。劇が終わった後はみんなで写真を撮ったりして、小さなスターたちと素敵な時間を過ごすことができた。そして最後に、こちらからのパフォーマンスとして日本語で「さくら」と「幸せなら手を叩こう」の2曲を歌った。生徒からの質疑応答のコーナーでは、日本の環境や日本とアメリカの文化の違いなどを聞かれ、日本人としてもっと日本を意識しなければならないな、と強く感じた。プリンストン小学校の生徒皆は一人一人が凄く輝いていて、本当に素敵な小学校だった。



素敵な劇をしてくれた小学生達と♪

プリンストン小学校 東浦 千苗

姉妹都市交流の一部として、プリンストン小学校という小学校を訪問した。小学校の職員の方々は、私たちが訪問するのを楽しみにしてくださっていたらしく、色々と計画を練って待っていてくれた。だから、わずか一時間ほどの滞在だったが、とても濃密で楽しい時間を過ごすことができたと思う。

まず、図書室に案内され、そこで小学校の放送クラブの子供たちと少しお話をすることができた。私がお話しすることができた5年生の女の子たちは、二人とも口をそろえて読書が好きだと言っていたのが印象的だった。続いて、放送クラブが活動している放送室のような部屋に行き、そこで、私たちが挨拶をする動画を放送クラブの子供たちが撮影してくれた。どうやら編集をして、次の日の朝の放送の時に流す、ということらしく、



小学生なのになかなか活動していて感心した。また使用していた機材もどれも本格的だったうえ、撮影から編集、合図を出すところまで、全て子供たちが自ら仕事をこなしていて、すごいな、と思うと同時に、小学生の内にこんなに貴重な経験ができることをうらやましく思ったりもした。



次に、副校長先生と、もう一人の先生の方が学校内を案内してくださった。途中、講堂らしき場所では、私たちへのサプライズとして主役の数人の子供たちが「オズの魔法使い」の劇の一部を演じてくれた。劇というよりはミュージカルと表現した方が正しいくらいで、子供たちはとても楽しそうに歌って踊ってくれた。



また、カフェテリアには学校の象徴であるヒョウの足跡を模したシールが足元にずらりと貼ってあって、生徒はそれに沿うように並びさえすれば混雑しても混乱しない仕組みになっていた。なお、このヒョウの足跡はカフェテリアだけでなく、廊下など学校のほかのところでも見られた。食事を受け取るシステムも整っていたうえ、きちんとバランス

の良い食事がとれるように工夫されていたのも印象深い。カフェテリアで、5年生の生徒に向けて、私たちは日本語の歌を二つ発表したが、「しあわせなら手

を叩こう」の方は、アドリブでアメリカの子供たちも英語で歌ってくれたのが嬉しかった。彼らは私たちに、日本や日本の学校についてもたくさん質問してくれた。

他にも、視力が弱い子供たちへのサポートや、ギフテッドクラスなどの説明も聞くことができた。視力が弱い子供たちは、点字ノートを使うことによってほかの子供たちと同じ授業を受けることができるということや、スティックの使い方を学ぶ機会があること、そして階段や廊下が交わる場所など注意が必要な場所では足元の感覚で分かるように、とフローリングが変えてあることなどを学んだ。また、ギフテッドの子供たちには週一回、丸一日ギフテッドクラスを設け、授業でやるような学習とは違うことに挑戦する機会があるということも学んだ。教室にはローラーコースターのモデルや、ルービックキューブなどがあつた。どの子どもにも、ひとりひとり平等に学ぶ機会がある環境が整っていて、日本でももっと見習いたいことだな、と思った。

プリンストン小学校では記念品の交換も行った。もちろん、持ち帰る思い出もたくさん増えた。このような交流がこれからも続くといいな、と思った。



オーランド消防署見学では、まず外観の綺麗さに驚いた。廊下を進んでいくと、沢山のトロフィーや盾が飾られていて、その消防士達が色々なコンペティションに参加して得たものだと言った。仲がよさそうで、こんな職場は素敵だと感じた。

どこを見ても掃除が行き届いていて、飾られている絵も可愛くて、ここが消防署だということを忘れてしまいそうだった。

だから、キッチンを見学している際、本当の出動要請のアラームが鳴って、ここが消防署だということを思い出して、とても驚いた。



キッチンでは消防士が順番に料理をするらしく、丁度キッチンに立っている人がいたので見てみるとラザニアのようなものがオープンから出てきていた。

また廊下を進んでいくと、救助の際の写真が沢山飾られた壁があり、思わず見入ってしまった。こんなに過酷な場所を切り抜けてきた消防士たちは本当にすごいと思ったし、それを良い意味で感じさせない彼らを本当にかっこいいと思った。

お昼ご飯は、消防署の中でピザを食べた。パネラブレッドで食べる予定だったので、少し不満だったが美味しかった。

そこでホストファミリーと別れることが悲しくて泣き出す子がいたり、途中から一緒に食べてくれた消防士の方が面白くて笑ったり、とても楽しかった。

また、消防車を沢山見ることも出来た。

消防車はデザインがとてもおしゃれで、端から端まで磨き上げられていて、あまりにも綺麗で驚くと同時に感動した。

私は消防士の帽子を被らせてもらった。被るだけなら、そこまで重いとは感じなかったが、これを被って救助しに動くのはかなり大変だろうと感じた。

救助の際に使う道具も持たせてもらった。これは持つだけでも大変なくらい重かった。消防士の服は、着させてもらった子曰く、とても重かったらしい。

消防署から帰ってきたとき、ホストシスターが小学生の時、消防署見学をしたと言った。

このオーランド消防署を見学することで、私の中の消防署のイメージが良い意味で崩れた。

沢山一緒に写真を撮って頂いたり、丁寧に説明をしてくれたり、消防士の皆



さんには感謝しても仕切れない。

市役所では、まず市役所がこんなに綺麗でおしゃれなことに驚いた。

中には沢山の国の国旗が飾ってあり、日本の国旗を見つけて嬉しかった。

浦安が贈ったものが、そこにはちゃんと飾られていて、オーランド市と浦安市が姉妹都市であるということを再確認することが出来た。

部屋に通されて、沢山ジョークを飛ばす方の話を聞いた後、市長と会うことが出来た。

市長から、お湯を入れるとオーランドの景色が浮かび上がるマグカップを頂いて、とても嬉しかった。

日本でそれを使うたびにオーランドを思い出して帰りたくなってしまい、悲しくて切なくなる。

マグカップの包装の仕方が可愛くて、これからのラッピングの参考にしようと皆で話をしたことさえ遠い思い出で、少し寂しい。

温かく迎えてくださった市役所の皆さんにとっても感謝している。



オーランド消防署では1日あたり 22 人の消防士が勤務している。消防署に入って少し歩いたところにはたくさんのコンペティションのトロフィーがある。

警察VS消防士など、州企画・国企画で行われるコンペティションもあり、消防士の方々は勤務時間外に参加しているようだ。その先にはパソコン室があり、実際に火災があった際のレポートを作成するためにパソコンを利用する。昔はレポートを書くのは手書きだったが現在はパソコンを利用している。忙しいと自分の順番を待たなくてはいけない時もあるようだ。

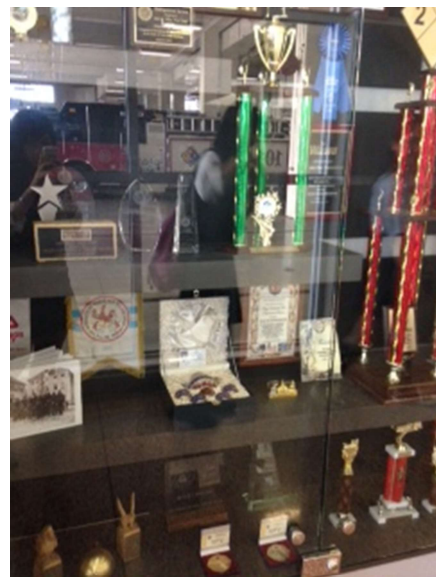
消防士はストレスの多い職業なのでトレーニングが大切だという話を聞いた。消防署内にあるジムを「パフォーマンスセンター」と呼び、日々トレーニングに励んでいる。また、テストもあるので勤務時間以外もトレーニングしに来るようだ。

忙しい中でも夕食はみんなで食べるようだ。夕食は1日7ドルずつ払って自分たちで買い出し、調理をする。

火災が起き、通報が入るとサイレンが鳴り、どこでどのような火災が起きているかが伝えられ1分以内に出動し、4分以内に現場に着くようにしているようだ。トレーニング中、食事中、睡眠中でもコールが鳴ったらすぐ出動できるようにしている。そのため寝るときもジムで着るようなウェアを来て寝るようだ。

実際の消防士の方が着ている服や道具も見せてもらった。私たちが両手で持つのも大変なものを片手で軽々と持っていて驚いた。また消火している際に汗をかくのでより服が重くなるのにも耐えなくてはいけないようだ。

隊員さんから話を聞いて、市民の方々のために日々トレーニングや努力を欠かさずしているのだと感じた。消防士は危険も多い、大変な仕事だが隊員さんはみんな生き生きしていてすごくかっこよかった。





オーランド市役所は広くて、綺麗で立派な建物だった。中に入るためには厳重なセキュリティーチェックを受けなくてはならず、日本の市役所とは大きく異なっていると思った。そのあとオーランド市議会議員のロバートスチュアートさんが話をしてくださった。スチュアートさんはとてもフレンドリーで面白い方だった。

そのあとオーランド市長が来て下さった。私たちへのプレゼントを乗せたワゴンを投げて笑いながら歩いてくるといふ、予想外の登場だった。私たちを歓迎してくださり、マグカップを頂いた。そのマグカップはお湯を入れるとオーランド市の景色が浮き出てくるといふとてもおしゃれなものだった。

スチュアート議員もオーランド市長も私たちをあたたかく迎えてくださった。また直接話をしたり、質問をさせてもらうこともできた。このような貴重な機会を頂けたことをうれしく思う。オーランド市と浦安市がより良い関係を築いていけるように私たちが架け橋となっていきたい。



ヒストリーセンター 武神 優子

1500年にフロリダが発見されたところからの展示がしてあるヒストリーセンターは1927年に裁判所として建てられ実際に使われていた建物にある。

まず、入り口には浦安市とフロリダの交流の証である日本人形が飾られている。日本とアメリカの人形交流は1927年から続いているものだと知り、続けていきたいと思った。

① La florida

フロリダは1500年にスペイン人によって発見された。

フロリダという地名の由来はスペイン語でたくさんの花ということからきている。

スペインからもたらされた疫病で多くの人々が亡くなった。

湿地帯で豊かな地域ではなかったオーランドの子供たちは普段、家の手伝いに励んだ。そんな子供たちが集まって遊ぶときは飴を作って遊んだとか…そこからlove storyが始まったかもね～なんてドーセントの方のお話も。

② セミノール戦争

セミノール戦争 (Seminole Wars)、とは、セミノールと総称される様々なインディアンとアメリカ合衆国とのフロリダにおける三次の戦争 (紛争) である。またの名を runaway war ともいう。

第一次セミノール戦争は1817年-1818年、第二次セミノール戦争は1835年-1842年、第三次セミノール戦争は1855年-1858年であった。

この戦争で負けたセミノールたちはオクラホマまで徒歩の移動を命じられた。多くの人々が亡くなったこの行進を trail of tears という。

③ オレンジの産地、フロリダ。

1900年代フロリダは世界有数のオレンジの産地として名を馳せていた。

スペインから入ってきたオレンジは冷凍加工ができるようになってからより一段と発展した。各農園がオリジナルのパッケージを持ちそのデザイン画が展示されているが、そのほとんどは既に閉園してしまったようだ。

④ 感想

Universal studio や Walt Disney World など観光業が栄えているイメージの強いオーランド。しかしそのようなイメージが定着したのはここ数年である。

今回の派遣は旅行ではなく、あくまでも研修メインなのでオーランドの歴史について学んだことでより一層派遣が充実したものになった。



ケネディスペースセンター 森本 友

私は宇宙に興味があり、ケネディスペースセンターは派遣の志望動機でもありました。ケネディスペースセンターには5日目、1時間 Dr.phillips 高校で授業体験をした後に行きました。ケネディスペースセンターとは、フロリダ州ブレバード群メリット島という場所にある、NASAの有人宇宙船発射場及び打ち上げ管制施設のことです。敷地面積は385平方キロメートル（ディズニーランドとシーが385個分）というとても広いところです。ここには実際に使われたスペースシャトルや使われなかったスペースシャトル、使われた宇宙服など、「これが宇宙に行っていた」と考えると、なんだか不思議になるようなものがありました。敷地内のバスツアーでは、スペースシャトル打ち上げ発射台をつくっている工場や、スペースシャトルの打ち上げ台を見ることができました。

また、アポロ/サターンVセンターでは、月の石を見たりアポロ計画の歴史を学んだりすることができました。



ケネディスペースセンターには、実際に私たちが体験することができる場所がたくさんありました。その1つは、スペースシャトルの着陸の角度を滑り台で体験するものです。スペースシャトルの地球への着陸は、 22° です。（飛行機の着陸は 3° ） 22° はとても急で、思わず叫んでしまうほどでした。



他にも、スペースシャトルの打ち上げを体験することができるアトラクションがありました。実際に90°椅子が倒れて、打ち上げの振動や音が体験でき、とても楽しかったです。

宇宙への興味がさらに湧く、素敵なおとこでした！

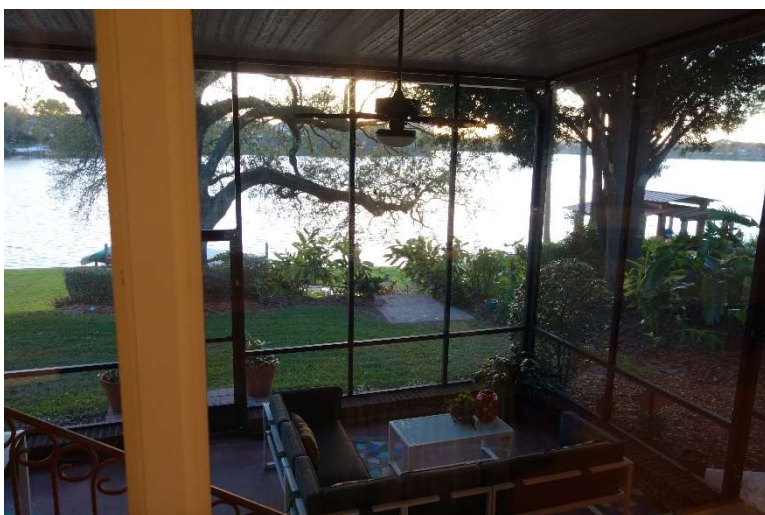


ホストファミリーとの思い出

武井 海薫

オーランド空港について笑顔で迎えてくれたホストファミリーをみて、やっとオーランドに来たのだと実感することができた。手作りのボードと良い香りのする大きな花束との歓迎に少し緊張が和らいだ。ホストシスターの Aurora はとてもきれいで勉強、スポーツ、美術どの分野でも才能がある、しっかりした子だった。お互いに Taylor Swift と Harry Potter が好きで服の趣味も似ていたため、すぐに仲良くなり楽しい1週間を過ごすことができた。

家に着いた後は、rowing の大会だった Aurora を迎えに行き家族と近所に住むおばあちゃんと一緒に夕食を食べた。その日は家にあるグリルで焼いたポークリブと Aurora が大好きだというマッシュポテトをポーチで食べた。ポーチは家の外についているもう一つの部屋のようなもので、家が湖の目の前にあるため風がとても気持ちよく、私が Aurora の家で一番好きな場所である。



2日目は Aurora と 2人で Disney world の Magic Kingdom へ行った。行く前に調べたところ、Magic Kingdom は日本の Disney Land のモデルになったパークだと聞いたため正直あまり違いはないのかと思っていたが、まず広さが日本の2倍ほどに感じられ、アトラクションのスケールや速さも全

く違いとても楽しい1日を過ごすことができた。待ち時間は2人でお互いのことをたくさん話したため、距離がとても縮まったと思う。効率よく回ることができたため多くのアトラクションに乗ることができた。最後に Aurora のおすすめのスペースマウンテンに乗り（これも日本にあるものとは違い、まず隣に人がおらず1列に5人座って信じられないほど速いスピードで進んだ）帰った時間が予定よりも1時間ほど遅れてしまったが、疲れを感じることは全くなかった。



そして3日目は Aurora と一緒に高校の授業を1日体験した。声をかけてくれた子に日本から来たと伝えると、とても興奮していくつもの明らかに日本について間違った知識を持っていると思われる質問をしてきたり、日本語を教えるほしいと頼まれたり、多くの子が私たちの国について興味を持っているようだった。日本にもあればいいのにと思ったのが、” pie day ” だ。3日目は3月14

日→3. 14で円周率の日ということで、3時間目の数学の授業中にみんなでパイやクッキー、ドーナッツなどの丸いお菓子を持ってきて授業中に食べた。

どれも甘かったけれどとてもおいしかった。またランチタイムも私の授業体験の思い出の中では1位2位を争う、とても楽しい時間だった。一緒に食べた子はみんないい子で、短い時間だったがたくさん面白い話をして笑わせてくれた。

4日目の夜には私がステイする前にお菓子を作ることが好きだから Aurora とクッキーが作りたいと言っていたので、一緒にキッチンで chewy なチョコレートチップクッキーを作った。オーブンで焼いている間は小さいころのアルバムを見せてもらったり、アイスクリームを食べたりして時間を過ごした。たくさんのクッキーを焼いたため次の日は大きなタッパーに入れてもらって派遣団のみんなにも食べてもらったが、おいしいと好評だったので嬉しかった。一緒にクッキーを焼くのがとても楽しかったため、次の日も急遽 Aurora 好きなシナモンのクッキーを作ることになった。私もシナモンが大好きなため、このクッキーはお気に入りの一つだ。またその日の午後は Aurora が所属している rowing の練習も見せてもらった。コーチのボートに乗せてもらい湖を何往復かした。ボートに乗ったのがまず初めてだったため良い経験をする事ができた。Aurora は cox という重要な役割になったばかりで大変そうだったが、いつもの姿とは違いとてもかっこよかった。



ステイ中はおいしい食べ物を毎日出してもらい、忙しい中遅くまでたくさんの場所に連れて行ってもらった。(帰る車で時計をふと見ると夜の10時を過ぎていることも多々あった) ホストファミリーには感謝してもしきれない。これからもバースデーカードやクリスマスカードを通じて交流を続け、いつかまた帰ることができたらよいと思う。

ホストファミリーとの思い出

武神 優子

今回私の受け入れ先としてお世話になったのが Dimov さんの家族である。Dimov fam.はご両親と私のシスターBianca(17)とその妹Priscilla(15)の4人だ。

① 概要

ホストファミリーと過ごした時間はかけがえのない時間でたくさんの思い出がある。なので、ここには日記の形で家族との思い出を記し最後にまとめようと思う。

3/12(土) 従弟のバースデーパーティ

3/13(日) モールでショッピング・ディズニー Springs へ

3/14(月) ウェルカムパーティー・gossip girl の観賞

3/15(火) 友達のお母さんと Universal Studio へ

3/16(水) アウトレットでショッピング

3/17(木) お別れ

② 毎日のスケジュール

6:20 朝食(トーストかシリアルかフルーツか自分の食べたいものを選択)

6:40 出発

7:20 到着(遅刻は日本以上に嚴重注意となる)

7:40 始業

※philips 高校は早い時間に学校が終わりそこからは個人活動となる。

③ 最後に

空港で会うまで不安でいっぱいだったが、そんなことが信じられないくらい打ち解けることができた。Bianca は私と同学年、Priscilla は 1 学年違いということで共通の話題も多くファッションから学校、恋愛話から大統領選についてまでいろいろお話しした。語彙力がなく、時にはなかなか通じずもどかしいこともあったがファミリーが精一杯私の意図をくみ取ろうとしてくれていたことが私もわかりとてもうれしかった。またそんなファミリーに、私も一生懸命わかってもらえるように伝えようと努力できたと思う。

ホストファミリーと過ごした一週間という期間は短かったが、とても濃い時間になった。私を JAPANESE FAMILY として快く受け入れてくれた Dimov.fam 感謝の気持ちでいっぱいだ。



ホストファミリーとの思い出

八巻 祐香

Day1 オーランド空港についてから、オーランドでの楽しみや期待よりも不安や緊張が高まった。上手くホストファミリーとコミュニケーションが取れるだろうか、今日の午後は何をするのだろうか、いろんな不安が胸を押し寄せた。だが、そんな不安はホストファミリーと対面の場所で Julia と目があって手を振った瞬間、一瞬にして消えた。日本を発つ前に line を通じて多少連絡を取り合っていたため、顔もすぐわかった。” yuu-yuu ” と書かれたピンク色の風船を持って私の名前を呼んでくれた時、本当に嬉しかった。思わず私は駆け出しぎゅっとハグをした。凄く素敵な毎日を過ごせそう、そんな予感がしながらホームステイ1日目は始まった。

空港から 20 分くらいのところに家があり、着いた瞬間その家の大きさに驚いた。Mom は私と Julia の写真をたくさん撮ってくれ、dad はたくさん質問をしてくれ家族全員が優しく本当に温かい家庭だった。昼食を取った後、日本では考えられないような超豪邸を案内してくれ、プールやジャグジー、目の前に大きな湖があったりと衝撃の連続だった。その後、買い物をしてモールへ行き日本でいうプリクラのようなもの（全く盛れない笑）を撮ったり、おすすめのお店などに連れて行ってもらい、午後も満喫することができた。

Day2 この日は一日フリーだったので Julia とユニバーサルに。朝、mom と Julia と Coco(犬)の散歩に出かけた。そして家に戻ってきた後、人生初のユニバへ！私はハリポタがすごく好きなのでホグズミードやダイアゴン横丁を最初に案内してもらった。Julia は年パスを持っていて先週も来たんだ～と言って、たくさんのことを知っていていろんな話を一緒にすることができて、楽しかった。他にもいろいろなアトラクションや絶叫ジェットコースターなどに乗り、待ち時間には Julia と話をしたり写真を撮ったりして非常に充実した一日だった。

夜は、ニューヨークから mom の妹さんなど親戚が集まって、一緒にご飯を食べた。みんな本当に優しく、私の下手な英語も熱心に聞いてくれ、一生懸命話そうとする姿勢が大事なんだなと感じた。



@airport



butter
beer

School bus!



Day3 終日、Julia と同じ Dr.Phillips 高校の授業を受けた。ピアノの授業では Julia がマリオやジブリの曲を弾いてくれたり、逆に私はパイレーツオブカリビアン曲を弾いたりして楽しんだ。日本語の授業では、外国人からみた日本語というものを見ることができて面白かった。アメリカの授業は日本と比べて自由で携帯をいじっている人もいればスナックを食べている人もいた。だが、生徒一人一人が自分の考えを持って

いて発言するときはちゃんと発言する人が多かった。

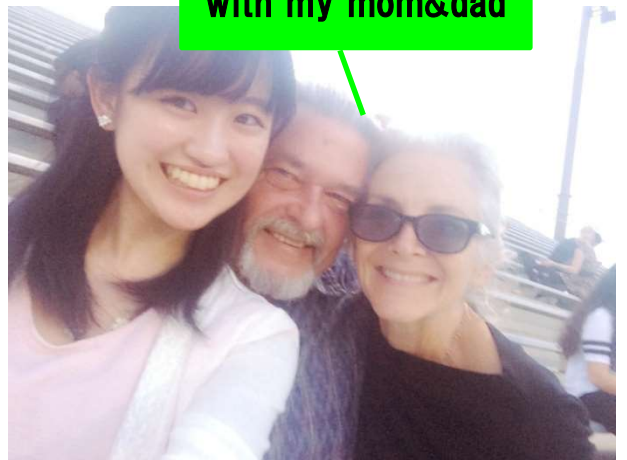
Day4 は文字数の関係で割愛します(´_`)

Day5 この日は家族と過ごせるラストの日。ケネディ センターから帰ってきた後、夕方から Julia のラクロス試合を見に行った。相手の選手から攻撃を受け足をけがして、一時ベンチでケアを受けるというハプニングはあったものの、チームは無事快勝！その後、世界で一番大きい昨日オープンしたばかりのマップに連れて行ってもらった。そこには、ゲームセンターもあり Julia とホッケーのゲームをやったり、いろんなゲームをして一緒に思いっきり楽しむことができた。家に帰ってシャワーを浴び、パッキングして一段落したときに Julia が部屋に入ってきて Dr,Phillips 高校のマップをくれて、その後 Julia の部屋に初進出！部屋にはたくさんの日本グッズやアニメのぬいぐるみ、など日本関連のものがたくさんあってすごく happy な気分になった。一緒に変顔の写真撮ったり、スナップチャットの加工を使って変な写真を撮ったり、面白動画を見たりして、ああ！ここまでできるレベルの友達になれたんだ！！って感動。(*^_^*)♡

おやすみは長いハグをして涙をこらえながら部屋に帰った。最後の夜は最高の夜でした！！！！

このファミリーが大好きです。

with my mom&dad



silly face



@sushi restaurant



ホストファミリーとの思い出

森本 友

私はホストファミリーとは本当にここには書ききれないほどたくさんの素敵な思い出ができました。

1日目、オーランド行の飛行機から降りて荷物を受け取ったらすぐそこに・・・♡以前からのメールのやり取りの写真でみていたドーラとレニーが、綺麗なオレンジ色の花と「ようこそ！Yu Morimoto」の紙をもって立っているのを見つけました！！そしてすぐに Universal Studios に行くことになりました。

一度家に帰って弟のディリーと、たまたま派遣隊の友達ホストファミリーがいとこだったのでその友達とブライスとも一緒に Universal Studios に行きました。時差の関係で結構ハードな日程でしたが、「疲れてない？眠そうだよ？」と気にかけてくれたので元気に楽しむことができました。まず、私が手紙で好きだとかいていたハリーポッターのエリアにつれていってくれました！「三本の箒」でバタービールとミートパイを食べたり、ジェットコースターにのりました。他にも、ジュラシックパークやポパイというジェットコースターにも乗りました。どのジェットコースターも、東京のディズニーよりは怖いけど富士急ハイランドよりは怖くないという感じで丁度良かったのですが、容赦なく濡らしてくるので乗った後はびしょびしょでした！乗り物に乗るまでの待ち時間はほとんど15分も無いくらいでしたが、並んでいる間はおしゃべりを楽しんで、乗った後はびしょびしょで笑い合うという本当に楽しい時間で、あっという間に夜でした。

家についたらディリーがパスタを作ってくれました。家事を分担してやっている様子が印象的でした。寝る前、日本のお土産を渡しました。扇子やせんべいや抹茶などいろいろプレゼントした中でも、一番喜んでいたのは、書いた後に消すことができるボールペンでした！とっても驚いていて、後日学校で自慢していました！



2日目は朝から Universal Studios に行きました。今回はドーラ、レニー、ディリーに加えてレニーのボーイフレンドとその弟と行きました。ですが途中からレニーとボーイフレンドのデートになってしまい、私はディリーとボーイフレンドの弟とまわりました！中学生と小学生の二人でしたが、おこづかいでアイスを1つかって来てそれをシェアして食べたのがとっても楽しかったです。

二人と話していると、ディリーはテニスが好きで私もテニスを習っていたことがあったので、Universal Studios から帰ったらテニスをするようになりました！3人でテニスをしていると近所の子も参加しに来ました。みんなフレンドリーで、すぐに仲良くなれました。

た。笑いが尽きない楽しい時間でした。

その日はドーラの誕生日だったので、夜ご飯を食べに行きました。その外食したお店が、なんと「日本食・森本」でした！たまたま名前が一緒だったので驚きました。店員さんのなかには日本語を話せる人がいました。味噌スープとお寿司を食べました。味噌スープは味が少し濃いめだったような気がしました。そのあとはディリーがボーリングに行こうと言ったのでドーラと3人でボーリングに行きました。途中でアイスも食べました。湖を囲んだ敷地の中にボーリング場もアイスの店もあり、ほかにもいろいろな店があり、どれもおしゃれで素敵な場所でした。「Call Me Maybe」や「Let It Go」など知っている曲も流れていて嬉しかったです。まだ2日目でしたが、ホストファミリーのやさしさに触れすぎて、でも1週間でお別れだということを考えると悲しくなり、その日の帰りに歩きながら涙がでてきました。

3日目からはレニーの通っている Dr.phillips 高校に授業体験に行きました。朝ごはんはドーラがパンケーキを作ってくれました。日本のどのカフェにも負けないおいしさが最高でした。フロリダ州では16歳から自動車の免許がとれるそうで、学校まではレニーの車で行きました。学校の友達みんなフレンドリーで、たくさん話しかけてくれました。中には千葉に来たことがある人がいて、チーバ君やふなっしーを知っていて驚きました！

その日の授業で1番印象に残っているのは数学の授業でした。その日は3月14日で「πデー」だったので、なんとパイやクッキーなどお菓子を食べただけの授業でした！先生もフレンドリーで面白かったです。毎日学校から帰ってくると Universal Studios に行ったり、レニーとドラマの「フルハウス」をみたり・・・と、てんこ盛りでした！ホストファミリーと過ごせる最後の放課後は、ドーラとディリーと Disney Pixar に行きました。日本にもあるタワーオブテラーに乗りました。待ち時間にジェスチャーゲームをしていると、まわりの知らない人も途中から参加しました。本当にみんなフレンドリーで面白くて、誰とでも友達になれてしまうような人々の雰囲気大好きになりました。日本でもこのような人々のあたたかさが増えればいいのと思いました。

最後の夜、ドーラとレニーとディリーからプレゼントをもらいました。お父さんは仕事で海外にいたので会うことはできませんでしたが、本当に素敵な家族でした。なにかおごってくれる時は、「いいのよ。あなたは家族だから！」と言ってくれました。私にもう1つの家族ができました。これからもっと英語が話せるようにして、必ずまた会いに行きたいと思います。



ホストファミリーとの思い出

浅野 瑞貴

ホストファミリーが発表されるよりも早く、ホストマザーの Janyce から携帯に連絡が届いた。そのメールの最後にかかれた「Just wanted let you know your welcome to our family.」を見た瞬間、優しい人なんだなってわかったと共にホームステイが始まるんだと強く実感した。その後、アメリカへ行く前に何通かメールで話をし、安心して臨むことが出来た。

空港に着くと、他の仲間のファミリーと共に Jamarie と Janyce が大きなミッキーのぬいぐるみと巨大キャンディーを持って待っていた。最初は Jamarie も少しだけ緊張してたようでなかなか会話が続き、仲良くなれるか不安であった。

そんな不安も束の間に、ご飯を食べ、大きな観覧車や水族館、スターたちにそっくりな人形とそのセットがある場所に行き、3人で変なポーズをとりながら写真を撮って回ったり、観覧車に乗ってきれいな景色を楽しむうちに気がつくと緊張も忘れ、あっという間に夜になっていた。家に着くと、ホストファミリーの Althur が待っていた。army と聞いていた通り体もがっちりしていて強面で大きかったけれど、いつもニコニコしていて思わず笑顔が移ってしまうくらいやんちゃな笑顔が可愛い人だった。また、Janyce から「Ace」という名前をもらった。今日からあなたは私の子供よ、家族だからねと言われた時は嬉しくて、仕方なかった。

次の日、日曜日は僕が来るということで、Jamarie が友達とユニバーサルに行く計画を立ててくれていた。どんな人たちだろうかと不安と期待を抱きながら向かうと、途中で3人と合流しあっという間に賑やかになった。話を聞くと、そのうち2人は Jamarie と同じ日本語クラスで一緒になり友達になったと言っていた。

驚くべき事に、みんな同い年だと思っていた彼らの年齢がみんなバラバラで、しかも1つ2つ歳上だった。先輩後輩意識の強い日本では考えられないほど仲の良いメンバーで、みんなとても優しいからすぐに打ち解ける事ができた！今も連絡を取り合えるような友達が出来て本当に幸せだ！

書きたいことはあるのだが字数の制約もあるので、最後に体験したことをざっくりと書く&特に印象深いことについて書く。

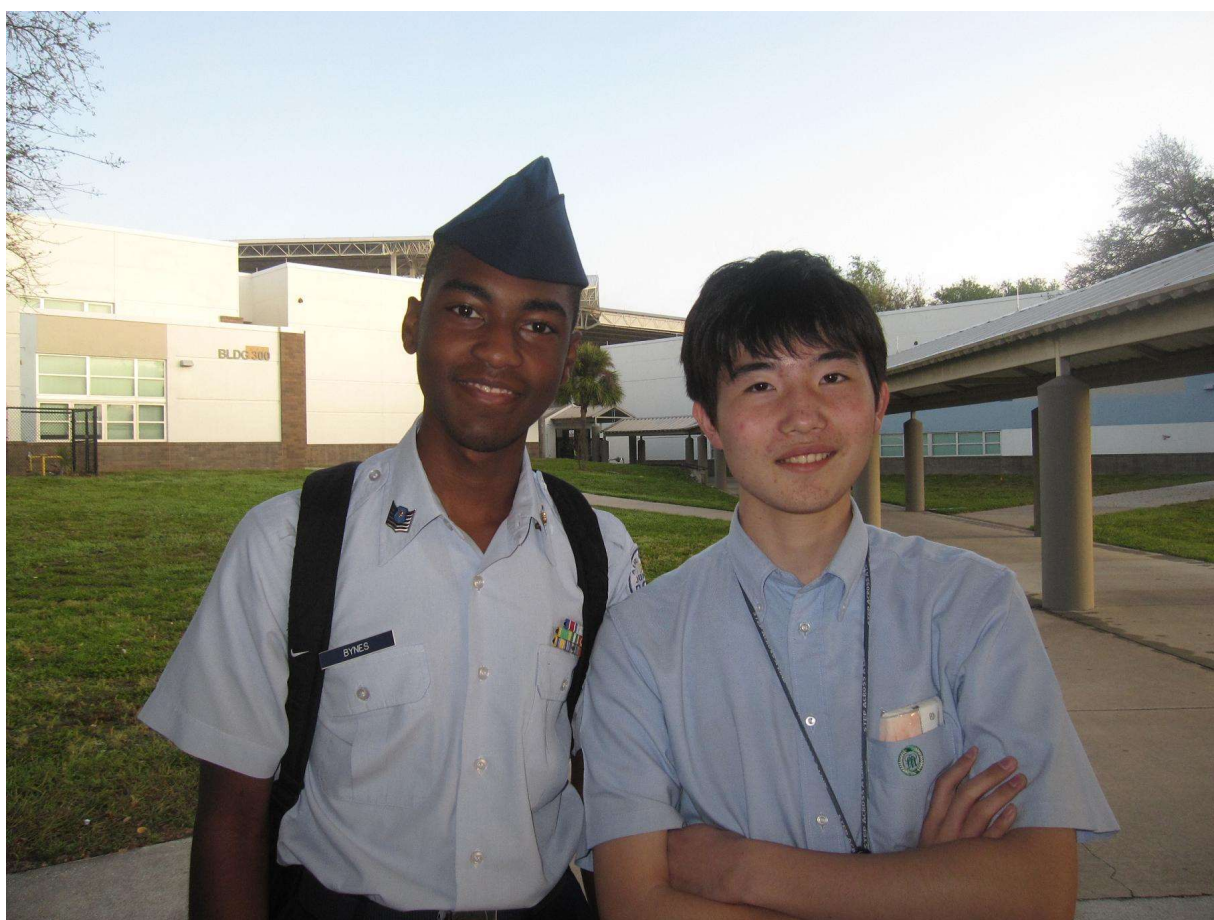
平日の午後は、僕が行きたいと言っていたショッピングモールやアメリカの病院へ連れて行ってくれたり、Janyce や Jamarie と一緒にバスケットボールをしたり、Althur は下手な僕にビリヤードを教えてくれた。

また、就寝前1時間くらいは僕のお気に入りの時間だ。家族みんなでリビングのソファに座り、ゆったりと話をしたりテレビを見たりした心落ち着く時間

であったからだ。

毎日いろんなことについて話した。アメリカの政治のこと(トランプ氏や選挙の事など)や日本とアメリカの学校の仕組みの違い、Bynes 家の家族エピソードなど話題は様々であるが、彼らの考えや彼ら自身を知ることが出来て、僕も拙い英語ながら思っていることを伝えられたのがとても嬉しかった。

一緒に過ごしたのはわずかな時間だったけれども、そんなこと思わせないほどたくさんの思い出ができ、もう一つの家族が出来た！！



ホストファミリーとの思い出

渡部 友梨香

元々メールで何度かやりとりはしていたが、会うのは初めてなので緊張しながらホストファミリーが迎えてくれる場所まで行った。私のホストファミリーは、シェフのお父さん、専業主婦のお母さん、16歳のRemy、18歳のLakea、11歳のRoccoそして犬のRolloだった。彼らと会えた時は本当に嬉しかったし、プレゼントやお花の風船、そして何より優しく楽しい彼らの言葉ひとつひとつが嬉しかった。

車に乗って、まずホストファミリーの家へ向かった。広くておしゃれで、本当にお城みたいで、初日から最終日まで家にいるだけでもずっと幸せだった。私



の部屋、私専用のバスタイムもあって、置いてあるものがホテルよりも充実していて感動した。あとから、彼らはホストファミリーとして初めて受け入れたのが私だったと知った。きっと沢山悩みながらこんなに素敵な部屋を用意してくれたのだと思う。ホストブラザーは2人とも柔道をしていて、家のあちらこちらに大会で手に入れたトロフィーや盾や剣が飾ってあった。Remyも柔道やレスリングをしていて、沢山のトロフィーや盾を持っていた。お父さんも沢山の賞や、有名人と撮った写真があって、その日はお父さんのレストランに行くことになっていたのも楽しみで仕方なかった。私がお土産を渡したり、Remyのアクセサリーやドレスを見せてもら

ったりしながらおしゃべりしているうちに夕食の時間になった。お父さんのレストランはとても素敵なホテルの中にあった。内装も素敵で、料理も期待以上においしくて食事に集中してしまい、写真を撮るのも忘れてしまった。

その後、Lakeaが好きなショッピングモールのような場所に連れて行ってくれた。帰りの車で私は眠ってしまって、謝ると、「そんなことで謝らないで。家族のように思ってね」と言ってくれてとても嬉しかった。



2日目の朝はRemyが起こしてくれて、Remyとお母さんとディズニーランドに行った。朝ご飯はメールで元々作ってほしいとお願いしていたパンケーキだった。というのも、この家族はハワイ系なので、本当のハワイアンパンケーキが食べたいと思っていたからだ。お父さんが作ってくれて、朝からパイナップルをまるごと切ってくれたり、イチゴやラズベリーが沢山出てきたりして嬉しかった。驚いたのは、海外のイチゴはおいしくないと思っていたのに、日本のイチゴのようにおいしかったことだった。パンケーキは今まで食べたパンケーキの中で1番おいしくて感激した。お父さんの作るパンケーキは私の好物

になった。フレンチトーストを作ってもらった日以外は、私は毎朝パンケーキを作ってもらって、色々な味を食べることが出来た。

その日はマジックキングダムとエプコットに向かった。日本ではあまり人気のないムーランが人気で、写真を撮れて嬉しかった。Remyはアトラクションが苦手だったのに、私のために一緒に乗ってくれた。2つのパークに行ったので、帰りは遅くなってしまった。こんなに幸せで大丈夫だろうかと思うほど、2日目の時点で楽しくて仕方なかった。

3日目は家が学校から遠いので5時には起きて支度をした。学校でのRemyは家でのRemyより元気で、Remyの親友にも会うことが出来た。Remyの親友の名前もRemyという名前で、とてもいい子で面白くて、出会ってすぐに好きになった。

どの授業も自由な雰囲気、面白くて、沢山の子が話しかけてくれたり、お菓子をくれたりした。ジャーナリズムの授業で、フリクションに感動してくれる子もいた。特に楽しかったのは日本語の授業で、皆が面白くて楽しくて、日本語が大好きだという子が興奮気味に何度も何度も話しかけてくれたり、何故かカエルのおもちゃを飛ばし続ける子がいたり、日本ではきっと見ることのない授業で、すごく楽しかった。お父さんが作ってお弁当にと持たせてくれたターキーのサンドイッチは本当においしくて、感動した。

ウェルカムパーティーの前に時間があつたのでアウトレットに連れて行ってもらった。ケイトスペードとVSで買い物をすることが出来た。お母さんが、「こんなにケイトスペードで喜ぶ子は見たことがないから、きっとケイトスペードを見るたびに友梨香のことを思い出すよ」と言ってくれて、なんだか嬉しかった。



Remyがその後レスリングの練習だったのでお母さんだけウェルカムパーティーに来てくれて、帰りの車で練習場にいるRemyとホストブラザー達のことを迎えに行った。車の中で、お母さんからRemyは私が来ることをとても楽しみにしてくれていたことを聞いた。お母さんに私が学校でのことを話すと、Remyはあまり学校のことを話してくれないから嬉しいと興味津々で聞いてくれた。

練習場につくと、そこでLakeaが黒帯なのを知って驚いた。柔道の先生は日本人で、練習が終わるまで待つ間、先生の奥さんと話すことが出来た。とてもいい人で、連れて行ってもらうべき所

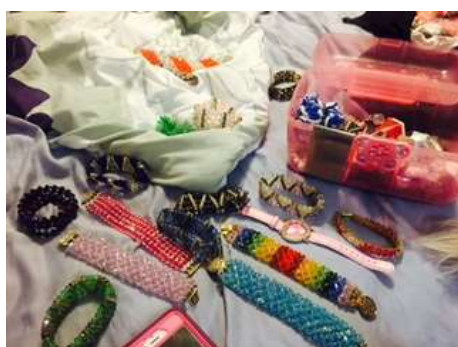


や、お父さんがどれほどすごいシェフかを教えてくれた。夕食もお父さんが作ってくれて、おいしくてそのパスタのレシピを教えてもらった。

4日目も朝早く起きて1時間目のジャーナリズムの授業だけ受けた。フリクションに感動していた子と今度 Remy に送るから受け取ってねと約束したり、昨日あんまり話をしてくれなかった子がプレゼントをくれたり、その日も学校が楽しかった。

その日の活動を終えて帰ると、私が弟のトレーダージョーズのバッグを使っているのを2日目に知ったお母さんが私にトレーダージョーズのバッグとお菓子を買ってきておいてくれてプレゼントしてくれた。そんな些細な会話の中で言ったことに気付いてくれて、プレゼントまでしてくれる優しさが嬉しかった。

夜ごはんは、お母さんと Remy とチーズケーキファクトリーに行き、沢山3人でおしゃべりをした。お母さんが Lakea の彼女があんまり好きではないと話していて、どの国にも嫁姑問題はあるのだと思い、なんだかとても面白かった。



この日の夜、私と Remy は一晩中尽きない話をして、もっと仲良くなることが出来た。この夜話をしたことが、きっと私の1番の思い出だ。その時、Remy のおばあちゃんが作ったブレスレットをくれた。私はもらった日

からずっと、出かけるときは必ずそのうちの一つを付けている。

5日目も1時間目だけ授業を受けた。できることならもう1度1日高校で過ごしてみたかった。Remy の親友が朝、私にプレゼントをくれた。私がアクセサリーを好きだと知って、買ってきてくれたらいい。嬉しくて、その日私は2人がくれた2つのブレスレットをつけて歩いた。オーランドの日差しを受けて私の腕でキラキラ輝くブレスレットは、私を幸せにしてくれた。迎えに来てくれたお母さんが「友梨香が来てくれたことで Remy と沢山話すようになったし、昨日の夜 Remy の知らないところを沢山知れた。ありがとう。」と車の中で言ってくれた。この日が最後の夜で、お母さんの言葉が優しくて余計に寂しくて車の中で泣いてしまった。

私はアウトレットにもう一度連れて行ってもらって、Remy に私とお揃いのネックレスとソックスを買って、その夜 Remy に渡した。明日付けようねと2人で約束した。おいしい夜ごはんを食べて、アイスを食べながらまた寂しくて悲しくて泣いてしまった。

その後、Lakea がロボットダンスを見せてくれて、私も好きなシンガーの動画を見せて歌ったのも楽しかった。お父さんは私が料理好きだと知って、使っている料理本をくれた。お母さんが沢山ストックしてあったお菓子やコナコーヒーをくれて、スーツケースに入りきらなくなり、早速くれたバッグを使わせてもらった。そしてまた Remy がブレスレットを何個か譲ってくれた。Remy は、私の友達の分までブレスレットをくれた。Remy が宿題をしに行ってしまった後、お母さんと夜遅くまで話をした。

おやすみを言うときに、「私の娘のように思ってる」と抱きしめてくれて、ま

た涙が出そうになった。

朝起きて手紙を渡すと、向こうも手紙とプレゼントを用意してくれていて、この家にずっといたいと心の底から思った。学校に向かいながら、車の中で沢山話をした。「私の幸せはあなたの幸せ」とまで言ってくれたお母さんと別れるのは名残惜しくて、寂しくて切なかった。



2時間目が終わると、私はバスに乗らなくてはならなかった。Remyの親友の Remy も、この日は休み時間の度に一緒に移動してくれた。バスに向かう道も、大笑いしながら3人で歩いた。バスを目の前にして、本当に別れなければならないという現実を突きつけられて、私が泣くと、2人も泣きそうになってしまって、そんな自分たちに私たち3人はまた笑った。

私はこの世界で1番素敵なホストファミリーに出会うことが出来て、世界で1番幸せな女の子だと思う。わがままを言えば、もっと一緒にいたかった。どんな感謝の言葉もしっかりこない。今も Remy やお母さんからの連絡が来る度とても嬉しい。思い出が色褪せないように何度も何度も思い返すと、彼らがしてくれたこと、かけてくれた言葉が優しすぎて幸せすぎて、私に刺さって悲しくて切ない。

たった数日間の中で起こった出来事だったけれど、この数日間は私が生涯忘れることのない幸せな宝物だ。

私のホストファミリーは、同い年のホストシスターと両親と小型犬一匹のごく普通の家庭だった。オーランドに行く約一か月前から、時々ホストシスターとはSNSを通して交流していたが、お互いの都合で電話などをする暇はなく両親とも話していなかったため、初対面は空港だった。



ホストシスターの第一印象は明るくて活発な女の子だった。空港で会ってすぐに全体の集合写真を撮ったのだが、どうせなら前列に行こうと引っ張られていったのが最初の思い出だ。

空港で解散した後は、そのまま車でビーチまで行った。シスターとママとは行く道々いろいろな話をして打ち解けられた。後から聞いた話だとこの時行ったビーチはケネディ宇宙センターの近くのビーチでサーファーが多いそうだ。シスターが最近サーフィン始めていたというのも車の中で教えてもらった。その時は、時間が遅かったのと準備できなかったのとで、サーフィンはもちろんできなかったが、シスターと砂浜で遊んだ。

次の日は丸一日遊園地に行った。ブッシュガーデンというところでオーランドからはだいぶ離れているが、有名なところだったようだ。行く前からユニバーサルスタジオか、ブッシュガーデンか、ディズニーか、行きたいところを選んでいいよと言われていたのでシスターとも相談し、いろいろ考えた末にブッシュガーデンに行くことはあらかじめ決めてあった。当日はシスターの友達の男の子の家までママに車で送ってもらい、そこからはその男の子の運転でブッシュガーデンまで行った。最初は全く話したことの無い相手だったのもあってあまり会話が弾まなかったが、音楽の話などで盛り上がるうちに打ち解けられた。

連れて行ってもらったブッシュガーデンは、動物園と遊園地の融合型エンターテインメント施設といった感じで、園内にはいろいろな動物もいたが数々のアトラクションもあった。日本と違ってアトラクションは限度が全く違い、あるものは服がシャワーを浴びたかのようにビシャビシャになったりもした。下を向いたまま落下するフリーフォールの物は初めてで、さすがに怖かったが乗ってみると楽しくて貴重な経験ができたと思った。

個人の感想としては、ブッシュガーデンの乗り物を制覇できたので、富士急ハイランドの乗り物も乗ってみても大丈夫かもしれないと思った。



学校に行くようになってからは、両親とも話す機会が増えた。朝は毎日ママが車で学校まで送ってくれた。毎朝、犬も一緒についてきて、学校までのドライブの間、車の中で動き回っていたのが可愛かった。

パパに最初にあったのは三日目の夜だった。

四日目の学校に行った日の帰りにはシスターと一緒に三人で chipotle という有名なメキシカン料理のお店に食べに行った。久しぶりにメキシカン料理を食べられたのはすごくうれしかった。

シスターがちょうどフラッグフットボールのチームに入っており、学校のあった三日間は試合があった。四日目はちょうど時間が合い、ママも見に来れるということだったので、迎えに来てくれたままと一緒に試合を見に行った。試合会場には、三日目に丸一日学校で過ごした時にできた知り合いも何人かいて、その子たちと会話で盛り上がるのができて楽しかった。

ホストとの最終日の夜にはショッピングにも連れて行ってもらった。私の家族へのお土産を探すのがメインだったが、シスターといろいろな店を見て歩きながら話が盛り上がって楽しい夜だった。

私とシスターはお互いあまり泣くようなキャラではなかったし、お互いにそれを言い合っていたこともあり、別れる時もその話で笑い合っていた。みんなが沈んでいる時でも、お互いに自分たちの笑い話などをして最後まで笑顔でいられたあたり、いろいろな意味で、私たちらしい関係を築けたのかなと思っている。



短い間だったが、いろいろなことを共有し、本当の家族のように、特にシスターとは本当の姉妹のように過ごせた、短かったけれど、ものすごい濃かった日々だと思う。みんないろいろなファミリーといろいろな経験をしているけれど、私は私でホストと良い関係を築けたと自信をもって言えるような日々だった。

私のホストブラザーは Bryce Badger (ブライスバジャー) という、日本でいう高校二年生の青年で、人当たりも良く言語の壁があったけれども仲良くなるまでにそんなに時間はかからなかった。

私はオーランドに着いた日の次の日の終日、ホストファミリーと過ごした日のことがホストファミリーとの一番の思い出になっている。

その日は、Bryce と彼の愛犬と共に、家の近くを散歩したら偶然虹を見ることができたり、彼のバイト先である Planet Smoothie というスムージー屋さんへ行き、木苺スムージーを飲んだり小さな幸せをたくさんみつけられ、とても幸せな朝を過ごした。

その後、彼の友人が3人家に来て一緒にパンケーキを食べながら和やかに談笑した。

この時驚いたのは、彼らが家に来ると決まったのはほんの1日前の話で、さらに準備から片付けまで大人の手を、ほとんど借りずにやっていた。

やろうと思ったら、すぐに実践できる環境が整っていて、大人たちもそれを信頼して口を出さない、その結果、自立した子供達が育っていきとても頼りになる人に育っていく。私はそんな彼らを尊敬する。

その後みんなとプールで遊んだ。家にプールがあるだけあって、家で犬を飼っているところでは、犬と一緒にプールを楽しむことができた。

しかし、私たちも犬も同様にはしゃいだ結果、犬の爪が友人の背中を引っ掻いてしまった。ここでも彼らはしっかりしているだけあって、あたふたすることなく、救急箱を持って適切に対処していた。

もし私の家で同様なことがあったら、私はきっと誰かに指示を出されるまで行動できない気がした。本当に彼らを尊敬する。

その後、私が来たからか日本のジブリ作品である「耳をすませば」を見た。内容はなんとなく頭に入っていたし、登場人物の表情や動きから何を言っているのかを把握することができ、そのおかげで知らなかった英語での言い回しを知ることができた。

そして、6時頃まで勉強したり、ツイスターゲームをしたりしてみんなと解散した。

ちょうどこの頃にはホストファミリーの大黒柱で



ある Michael が、ステーキを作っていた。写真を見てわかるように特大のお肉を巨大な包丁を使ってさばいていた。なんとも豪快な料理であったが、味は調味料が効いていて、ほのかにいい匂いが漂い、少しピリッとした味付けの肉に BBQ ソースを垂らし、これぞアメリカとも言える最高の料理で、とてもおいしかった。

食べた場所も自宅の綺麗で大きなプール横のテーブルで、どこか一流レストランのテラスで食べている気分になり、美味しい料理をさらに美味しく楽しめた。

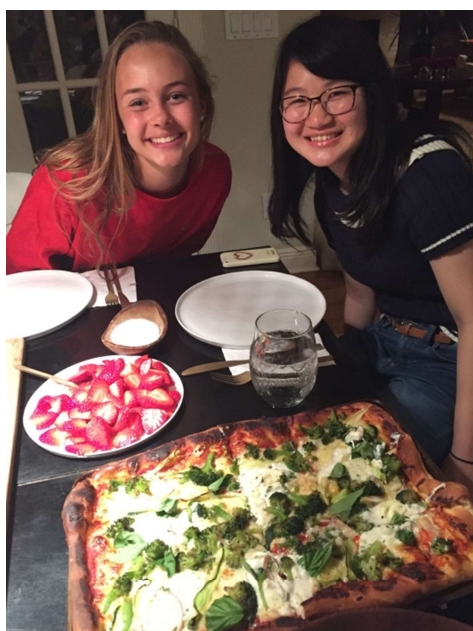
オーランドといえば、ディズニーワールドやユニバーサルスタジオフロリダなどの大規模なテーマパークを思い描く人が多いと思うけれど、このホームステイを通して、私はそれらを支える暖かい人の心を感じた。英語が拙い私にも積極的に話しかけてくれたり、私が理解できないことを懇切丁寧に教えてくれたりと、本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。将来また彼らと会いたいと思える素晴らしい体験だった。



ホストファミリーとの思い出

上原 瑞葉

オーランド空港に着いたとき、ホストマザーの Amy とホストブラザーの Roman が、大きなボードと風船を持って迎えに来てくれていた。挨拶をし、ホストマザーがハグをしてくれて、大きな歓迎を受けてすごく嬉しかった。それまでの緊張や不安が一気に和らいだ。そして車で、その日に試合があったホストシスターの Bella に会いに行った。向かう途中でホストマザーがいろいろな質問をしてくれた。分からない言葉があると説明してくれたり、毎回私が聞き取れているか、理解できているかを確認してくれたので、きちんと話すことができた。Bella は私よりも年下の 14 歳だが、身長も高く大人っぽくて驚いた。そのあとはモールに行き、モールの中のいろいろなお店を紹介してもらった。モールは広く、どのお店も日本のものより大きくて、様々な種類があった。ショ



ッピングのあとは家に帰り、ホストファザーの Mr.Patrick に会った。握手をした時の手がとても大きくて、迫力があった。夜ごはんを食べながら話をし、盛り上がった。日本からのお土産を渡すと、みんな喜んでくれた。日本の文化や芸術に関心を持ってくれていたので嬉しかった。

2日目はユニバーサルに行った。アトラクションは、シミュレーション型のものやローラーコースターなどがあり、すべてが新鮮で面白かった。Bella や Roman がどのような乗り物があるかを親切に説明してくれたおかげで、とても楽しむことができた。夜はレストランに行っ

て食事をした。日本の普段の食事や学校での授業について話をしたが、自分の知識が少なく答えられないことがあったので、日本のことや自分の身の回りのことを、もっと知ることが必要だと思った

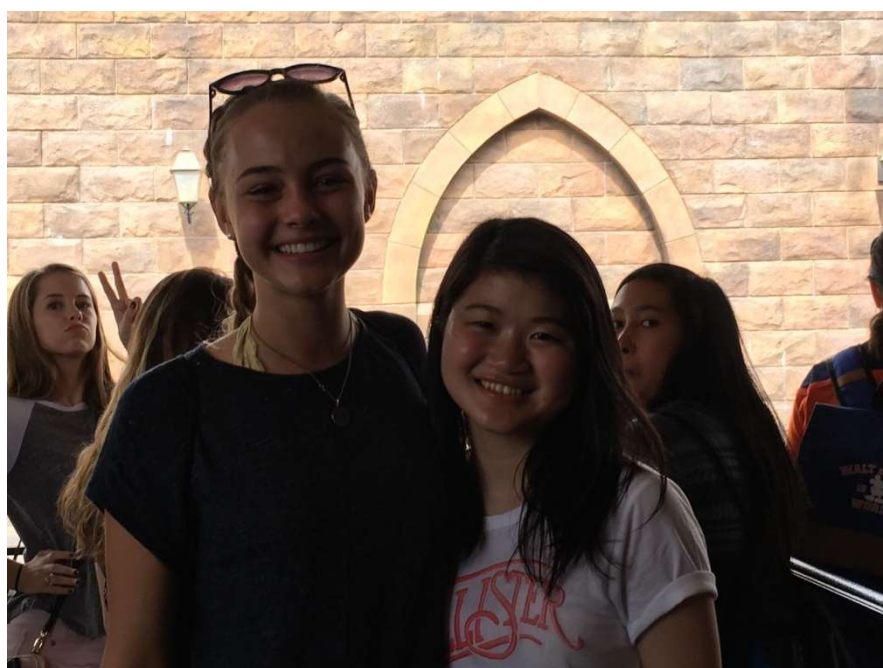
3日目は、夜ご飯を食べに行った。自分でハンバーガーの中身をカスタマイズできるお店だった。お皿からあふれるほど山盛りのフライドポテトとオニオンリングを食べて、お腹いっぱいになった。

4日目はホストマザーと TARGET というお店に行った。雑貨や衣類、食品など、たくさんのものがあって驚いたが、私が一番驚いたのは、食品の種類が多さだ。シリアルひとつとっても、大きな棚の端から端までヘルシーなものやカラフルなもの、変わった味のものなど、たくさんあった。

5日目はアウトレットでショッピングしたあと、湖に連れて行ってもらった。ちょうど日が沈むころで、景色がすごくきれいだった。夜はみんなでテレビを見ながら、Mr.Patrick が作ってくれたパスタを食べた。みんなで笑ったり盛り上がったたりして、私も家族の一員になれたようでとてもうれしかった。

たくさんの場所に連れて行ってもらったり、たくさんのことを教えてもらったりと、とてもよくしてもらった。最初から最後までうまく思っていることを

伝えられなかったり、聞き取れなかったりして歯がゆい思いもしたが、温かく優しい Patric 一家と過ごした日々は、楽しいことや刺激になることばかりでとても充実していた。私のつたない英語を一生懸命に理解しようとしてくれたり、忙しい中予定を立ててくれたり、感謝してもしきれない。私は Patric 一家という素晴らしい家庭でホームステイできたことは、本当に幸運だと思う。



ホストファミリーとの思い出

東浦 千苗

私が空港に着くのを笑顔で待っていてくれたのは、ホストシスターとホストマザーだった。私のためにポスターを用意してくれていて、会ったときの挨拶は、アメリカンなハグだった。おかげで緊張していた気持ちも忘れることができ、とてもありがたく思った。

ホストシスターの Hadassa はアフリカ系の方だったので、生活を一緒にさせていただいているうちに、アメリカの文化とともにアフリカ系の文化も同時に感じる事ができた。彼女には、一歳年下で私と同年の弟さんがいたが、弟さんとホストファザーはほとんど家にいなかったため、ほぼずっと Hadassa と過ごした。

ついで当日は、Hadassa と彼女の友達、そして、その妹さんと四人でアウトレットに行った。アウトレット自体の雰囲気は日本のものとあまり変わらなかったが、売っているものを見て回るだけでも楽しかった。私は個人的に特に欲しいものなどはなかったため、ホストシスターたちに回る店を任せるところ、アメリカの十代のトレンドが少しわかった気がした。



一日フリーの日は、残念ながらホストシスターが午前中にバイトに行かなくてはならなかったため、午後からの行動となった。しかし、ホストシスターは私がいる間はあまりバイトに行かなくてもいいように、と最大限日程を調整してくださり、その結果のバイトであり、



そこまでしてくださったことに感謝でいっぱいだった。ホストシスターがバイトから戻るまでは家でのおんびりし、戻ってからすぐキャンプ場のような、森のような、公園に行った。そこには人工だと思われる、湖のような、川のような水があり、そこに少し入って遊んだ。



また、ブランコがあったので、二人で乗りながら高校生らしい会話をすることができたのが思い出深い。



学校が始まってからは、そこまでゆっくり過ごす時間は無くなってしまったが、それでも授業が終わった後にシティーウォークに連れて行ってくださったり、学校で行われていたフラグフットボールの試合を見に連れて行ってくださったりなどしてくれて、嬉しかった。特に最終日の放課後は、思い出深い。

当初はホストシスターが好きなスケートをしに行く予定だったのだが、車の関係で行くことができず、予定がなくなった。そこで、ホストシスターの提案で、彼女の普段通りの放課後を一回一緒に過ごしてみることにした。基本的に家の周辺で、Hadassaのお友達と一緒にいて、近所の知り合いだという方の犬三匹を散歩に連れて行ったり、その方の家で少しのんびりしたりなどした。散歩では、近くの湖の周りを歩くことができ、身近にある自然を感じることができたうえ、きれいな夕日も見ることでよかった。



また、全体的に高校生らしい会話を楽しめた。散歩から戻った後は、木登りをしたり、アイスクリームトラックの人からお菓子を買ったり、ゆっくりお話しをしたりなどした。特別なことはしていないのに、この日がとても思い出深いのは、現地の高校生の日常を垣間見ることができたからではないかな、と思う。

これは旅行だったら絶対できないことなので、貴重な経験であったとともに、日本での私の日常との差と同時に、似ている点もわかり、興味深かった。

ホストファミリーと過ごした時間はとても速く過ぎてしまったが、過ごした時間以上の思い出ができたと思う。「今日からあなたはこの家族の一員だから」と、温かく迎えてくださったホストファミリーに、感謝の気持ちでいっぱい。これからもずっと連絡を取り合っていきたい。

海外派遣の思い出

武井 海薫

今回の派遣は、この 10 人のメンバーで行くことができ本当によかったと思う。オーランドでみんなと過ごした時間は、かけがえのない宝物であり、撮った写真を見返すたびに、楽しい思い出に浸ることができる。

4日目にバスで行った NASA のスペースセンターは、お気に入りの場所の一つだ。スペースシャトルはとても巨大で、どううまく写真を撮っても、この大きさは伝わらないだろうと思った。中では様々な展示をしているだけでなく、いくつかのアトラクションがあり、私は何人かと、スペースシャトル Atlantis ができるまでを進みながら映像をみて学ぶものと、スペースシャトルが離陸する時の振動と角度を体験するものに乗った。とにかくクオリティーが高くてスケールが大きく、お金のかけ方が全然違うと、ただただ感動するばかりだった。2つ目のアトラクションに乗る前に、いつもは冷静な添乗員の武居さんがかなり興奮していたのも、とても印象的だった。



最終日の Animal Kingdom も楽しかった。Animal Kingdom は動物園とディズニーランドが合体したようなパークで、様々な場所で動物も見ることができた。

エクスペディション・エベレストは人気のジェットコースターの一つで、前に落ちるだけではなく、後ろにも急な斜面をととても速いスピードで上がっていく。ホストシスターおすすめだと聞いており、みんなで並んで二回乗った。

日本のディズニーは人気のアトラクションだと待ち時間が 200 分という



場合も少なくないが、フロリダでは35分~45分がほとんどだった。人が少ないということもあるのだろうが、時間の計算も多少適当なのだと思う。

メンバーの中で同じ高校1年生は4人と、半分以上は先輩ではじめは緊張していたが、派遣前に事前研修や食事に出かけることで学年、男女関わらずとても仲良くなることができた。

ウェルカムパーティーの発表グループで同じAグループになった友梨香ちゃん、周平君とは、それら以外にもプレゼンテーションの準備で会うことが多く、3人それぞれ学年が違うにもかかわらず、いつまでも話し続けることができるほど仲が深まった。

また1年生は同い年どうしの絆もでき、とにかく良いメンバーに恵まれて、とても幸せだったと思う。最終日は家に帰ることを考えると、とても憂鬱だった。

オーランドの気候と景色は素晴らしく、ホストファミリーも温かくて、派遣団のメンバーと過ごす時間も最高で、この時間がずっと続いてほしいと思った。

英語で自分の意思をしっかりと伝えることにも、やっと慣れてきたところだったため、もっと長い期間滞在することができればと少し悔しかったが、それだけ充実した1週間を送ることができたという達成感も感じた。

私を派遣でこの10人のメンバーに出会わせてくださった審査員の方々、現地で活躍してくださった中島さん、大塚さん、頼りになった添乗員の武居さん、そして海外派遣に参加させてくれた両親に感謝し、この経験を自分の将来にしっかり活かすことができるようにがんばりたい。



海外派遣の思い出

武神 優子

アメリカに行ってみたい、英語が話せるようになりたい。という軽い気持ちから始まったフロリダ派遣。私が期待していた以上に多くのことを体験し、学び、たくさんの思い出ができた。

一つ目に、アメリカの学校生活を体験できたという思い出だ。

この思い出からは、日本とアメリカの教育の違いを自ら体験した。

日本では必修科目があり、大学に入るためには試験に比重が置かれる。

一方で、アメリカでは自分自身でゼロから科目を決め、時間割を立てる。大学進学においても、学校の試験や宿題が大切である。

専門を持つことを望むアメリカと、幅広い分野に知識を持つことを望む日本。

どちらが良い悪いではなく、興味深い違いだと思った。

このように、今回の派遣で、物事をいろいろな面からみる、ということを手学んだ。

二つ目に、シスターと過ごした思い出だ。

これは、今回の研修の中で最も大きく一番大切な思い出だ。私は学校の交換プログラムに参加し、昨夏オーストラリアでホームステイをさせていただいた。実際にホームステイをした際に、自分の無力さに愕然とした。リスニングで分かってしまうと、自分から話しかけることができず、コミュニケーションをたくさん取れなかったのだ。なので、今回のフロリダ研修では自らコミュニケーションをとり「英語が話せるようになる」という自分の夢に近づきたいと思っていた。そのため、いろいろなことを話し会えたことが、私にとって、とても大切な思い出で、自らの目標を達成できた。

日本を旅立つときに友達から言われた「自分の夢に一步でも近づけるように」ということを考えて行動した一週間は、とても濃厚な時間となった。

シスターと対面する緊張感も、別れる辛さも一緒に体験した派遣生の9人、いつも迷惑をかけてしまいながらも助けて下さった、団長と中島さんをはじめとする市役所のみなさん、そして受け入れてくれたホストファミリーと送り出してくれた両親。

この派遣に関わられた、すべての人に感謝します。ありがとうございました。



“ホストファミリーとの思い出”のページでホストファミリーとのことについてたくさん書いたので、ここでは一緒に行った10人のメンバーとのことを書こうと思う。

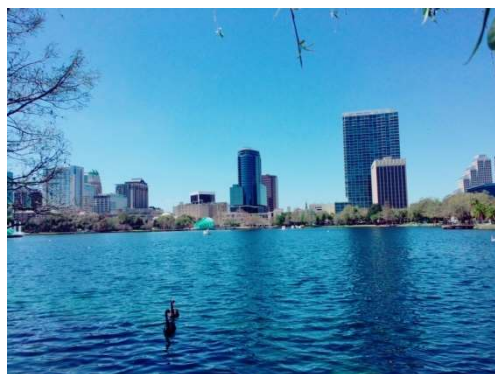
11月上旬にあった第一回事前研修が、すごく懐かしく感じる。初めて顔合わせをしたときは、“個性的な男子2人とちょっとおとなしめな女子8人で普通に仲良くやっていけそうだなあ〜”と思った。だが2回、3回と事前研修を重ねていくうちに、それぞれの素の部分が出てきて、みんなで集まると、うるさいくらいに騒がしくなり、とても楽しいメンバーだった。

オーランドでこの10人で行った場所を、いくつかピックアップして書こうと思う。



エオラ湖

4日目。プリンストン小学校を訪問した後、エオラ湖に行って写真撮影をした。この日はものすごく晴天で空は青く、木々はきれいな緑色で、景色は素晴らしかった。



オーランド消防署

ここでは消防士さんに施設を案内してもらい、いつ来るかわからない非常事態のために、常に備えている消防士たちのすごさを

実感することができた。消防士の方が着る、厚くて重い服を着せてもらったり、実際に火事の現場で使う器具を持たせてもらうことができた。昼食はオーランド消防署の中で食べたのだが、みんなと、ホストファミリーと過ごせるのがあと1日しか残っていない、という話をしていたら、ホストファミリーと別れるのが悲しくなっていて、日本に帰りたくなくて友ちゃんと瑞葉と泣きだしてしまい、泣いてるのか昼食を食べているのか話をしていないのか分からないという事態になった(笑)



ケネディスペースセンター

アメリカに来る前に、日本でこの施設のドキュメンタリー番組を見ていたため、色々な人の思いが詰まった場所なんだと感じながら訪問した。この施設は本当に広くて、ロケットの打ち上げが見えるギリギリの場所まで行ったり、打ち上げのシュミレーションをした体験型の乗り物に乗ったり、事故によって亡くなってしまった人たちの遺品を展示したコーナーに行ったり、普通では体験できないようなことを経験することができた。



アニマルキングダム

ホストファミリーと別れ、みんな号泣しながらバスでアニマルキングダムに向かった。バスがつくと、気持ちを切り替えて思いっきり楽しむことができた。日本のディズニーとは違って60分待ち以上のアトラクションはほぼ無く、たくさんのアトラクションにのることができた。



この文面じゃ伝えられないくらい、濃い日々を過ごせた。毎日が充実しすぎた1週間で思い出になってしまうのが、本当に悲しい。自分がこんなにも素で思いっきり笑って騒いで叫んで泣いて、いろんなことに共感できる、これからも一生付き合っていきたいと思える仲間に出会えたことに、本当に感謝したい。

この海外派遣を通して、新たな夢がまた一つできた。大学に入ったら、またこの10人のメンバーで集まって、オーランドに行き、それぞれホストファミリーと再会する、という夢だ。そう思うとこの一年、勉強も頑張れる気がした。

この派遣に関わってくれた多くの人に本当に感謝しています。
みんな最高！本当に本当に大好き！！

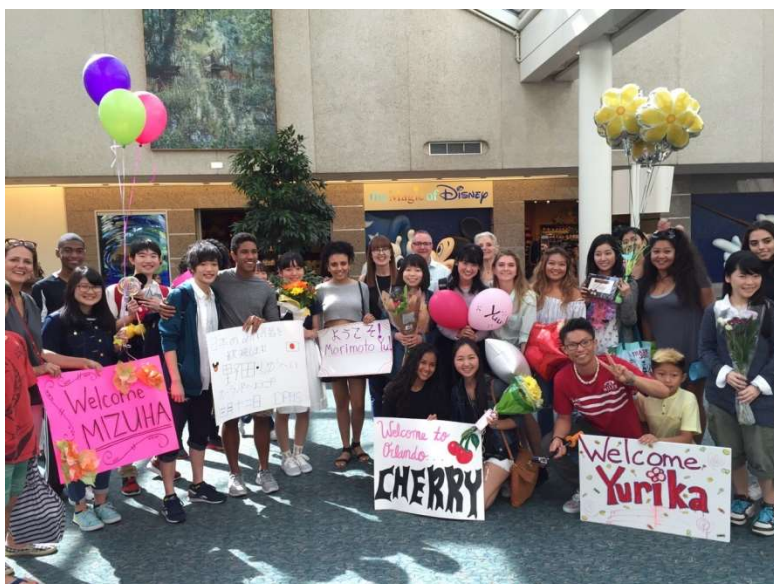


海外派遣の思い出

森本 友

私はこの派遣に参加出来て、本当に本当に良かったと感じています。1週間だったので「英語がめきめき上達した！」とかそういうことではありませんでしたが、確かにこれからの人生に影響する1週間だったと思います。

私にとって今回の派遣は、初めての海外でのホームステイでした。中学生から勉強してきた英語を初めて使いました。すべてのことが初めてで、新鮮でした。まず、時差が13時間もあるところに行くのが初めてでした。飛行機では、シートテレビが壊れていたり、機内食をとばされたりと、ハプニングもありましたが、それをきっかけに、隣の席の外国人と友達になれたような気がしたので良かったです。



なによりもの私の思い出は、やはりホストファミリーとの思い出です。ここには書ききれないほど、いろんなことをして、仲良くなることができました。

一緒に Universal Studios や Disney Pixar に行ったり、テニスをしたり、ショッピングに行ったり、のんびりしたり・・・

しかし、私の言いたいことを伝えきれなかったことや、ホストファミリーの会話を聞き取れなかったことなどもあり、これから英語をもっと勉強したいというエネルギーをもらうことができました。

派遣に参加出来たことも、気の合うホストファミリーと出会えたことも本当に運命で、携わってくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。必ずまた会いに行って、その時はもっとたわいのない話をしたり、作る予定だったけど作れなかった「ちらし寿司」をつくったり、また Universal Studios にいったり、またやろうと約束したテニスをしたいと思います。私はホストファミリーが大好きになりました。

そして今回の派遣で私を1番支えてくれたのは、派遣生のみんなでした。日本に帰ってきてから4日間は、夢にホストファミリーが出てきました。

オーランドに行く前からご飯を食べに行ったり、ウェルカムパーティーの準備をしたりしていくうちに、楽しくなっていました。年上の人だったり、私立の学校だったり、女子校だったり、私のこれまでの友達とはタイプが違って不安もありましたが、みんなとっても面白くて、優しく、大好きになりました。飛行機やバスも楽しむことができました。

ディズニーアニマルキングダムに一緒に行けたことは、最高の思い出です。

ジェットコースターに乗ったり、その待ち時間に話したり、アメリカらしいとても大きなお肉を食べたり・・・ みんなといるととっても楽しくて、あっという間に夜でした。夜ご飯はおいしそうなバイキングのお店まで歩いていきました。アメリカな街をお話ししながら行くのは、とても楽しい時間でした！

私はディズニーでもものすごく大きなお肉を食べていたので、たくさんは食べることができませんでしたが、お肉と果物がおいしかったのを覚えています♡ この10人の派遣生で行けて本当によかったです。



今回の私にとって初めてのホームステイでは、今までの旅行とは全く違った面からアメリカを体験し、中学から勉強してきた英語を初めて使うという、本当にすごい経験をする事ができました。市役所や小学校、消防署に行って交流することはとても貴重な経験でした。

とにかくオーランドに1週間いて感じたことは、みんなとても優しくて温かいということでした。私のことをみんな快く受け入れてくれて、たくさん話しかけてくれて。他にも、私のホストファミリーは、近くにいる赤の他人でもすぐに友達になっていたし、困っている人がいたら、すぐに気を利かせて動く行動力があったり、本当にいい人でした。今、私には英語を勉強する目的ができました。

いつか必ず、またオーランドに行って（できれば10人で！）ホストファミリーとたくさんお話をしたいと思います！次に会えるのがいつになるかわからない今、ホストファミリーのことを考えるとさみしくなりますが、手紙やメールでの交流を続けて、レベルアップした英語で会えるように頑張りたいと思います。

一生記憶に残るような素敵な経験ができて本当に良かったです。ありがとうございました。



海外派遣の思い出

浅野 瑞貴

この派遣では、今まで、そしてこれからも経験しない、できない体験の連続だった。ここでは、僕がこの派遣に臨むにあたって、目的としていたことの報告をするとともに、振り返ってみて思ったことについて書きます。

僕は事前に3つの目的を持ち、この海外派遣に臨みました。

一つ目は『今備えている自分の英語力が、どれほど通用するか挑戦すること』、二つ目は『アメリカの大きな観光都市であるオーランドの魅力について学ぶこと』、そして最後は『コミュニケーションをとる中で、現地の方の価値観を理解すること』である。

一つ目。。完敗でした。まだまだ頑張らなきゃいけないことだらけだけど、英語を学びたいって思える理由が増えて良かった。実際に英語を話す機会を得て初めて気付けたことだが、学校で習っている英語と日常会話は全く異なるという事だ。要望をする、説明をするという事は文章を考えて伝えられるけれど、とっさの感情や、感想を表す自分の語彙の少なさを痛感した。また、少し大げさに言うが、試験のためじゃなくて生活をするために英語があるって認識し当たり前のことだが、なんか感動した。

二つ目。。アメリカのスケールの大きさに拍子抜けであった。空港に始まり、道幅や料理の量に、トイレの大きさも（笑）有名な4つのテーマパークを有するディズニーやユニバーサルスタジオはもちろんのこと、訪問した市役所や消防署、中心街のみならず住宅街も含め、とても豪華な造りのものが多かった。建物だけでなく自然も美しく、きれいな公園や何十もの池もあった。加えて、多くのオーランドの人たちが温厚であったことも印象的である。観光客になれるのか、はたまた温暖な気候のせいであろうか。そんな彼らが作り出す空気は和やかで明るく過ごしやすい場所であった。ちょうど訪れた時にも新たな世界最大級のマックが完成していたことも一例に、オーランドの発展はまだまだ計り知れない。

三つ目。。ホストファミリーと過ごす中で、様々な話題について会話をした。大統領選挙が近づいていたことから、トランプ氏についてや、日本の政治についての話をしたり、日本とアメリカの学校の体制について話をした何気ない会話をしている、その内容に好意的かそうでないかが、すぐにわかった。僕の話をしっかり聞いて、反応を示してくれていたのだ。よく欧米の人の方が自分の意見を持っていると聞いていたが、意見は関心があれば誰しものが持つわけであって、それよりもむしろ、その率直な思いを表現する能力？習慣？が強いと思った。相手がどう思っているかわかると、自分の意見も出しやすく、会話が弾みやすかった。一週間という時間はあっという間で、もっといろんなことを聞き伝えたいという思いが強く残っている。いつかリベンジしてみせる！！

『感想』

何も言わずとも写真を見たら一目瞭然だと思うが、この派遣を迎える(準備する時点も含め)にあたって1番初めに気になったことは、男女の比率であった。男子2人に女子8人、さらに、学年もバラバラな個性的すぎるメンバーで、本当に仲良くやっていけるのかということ。自分は向こうの人達との交流を楽しみ、欲を言えばしゅう君(もう1人の男子)と仲良くなれば良いかという密かな目標すら抱いた。この海外派遣の僕のスタートは、そんな逃げ腰体制で始まった。

しかし、そんな心配は愚問だった。いざオーランドへ着き、一緒にいる時間が長くなれば長くなるほど、男子とか女子とか学年も関係なく、同じ海外派遣の仲間として一体感を持ち(ぎゅっとした?)親密な関係を築けていて、そしてそれを強く実感できて、凄く嬉しかった。同年代の同じ市に住む素敵な仲間と出会えて本当に良かった。みんな大好き!

旅行としてではなく、浦安の親善大使としてアメリカへ行くということで、現地の人達に「日本」を伝えること、いろいろな場所へ訪問し、肌で感じられたこと、高校の授業に参加し様子を知ることが出来たこと、浦安から果てしなく遠いオーランドに住む人と友好を深める機会もらったこと、こんなにも素晴らしい経験をする事が出来て幸せだ。この経験を忘れず、ここで出来たつながりを大切にしたい。

またみんなとオーランド行ける日を楽しみに、日々頑張るぞー!!



海外派遣の思い出

渡部 友梨香

私がこの派遣に参加して得た宝物のひとつは、皆個性があって、一緒にいるだけで楽しかった。とで不安だったけれど、いつの間にか皆が年下だということを忘れるほど仲良くなっていた。こんなにそのままの自分でいられて、息苦しさを少しも感じない友達が9人も出来たことがとても嬉しい。知れば知るほど、一緒にいればいるほど、皆が大好きになっていった。一緒に日本からオー



ランドへ行ってくれた武井さんもいい人で大好きになった。エオラ湖で武井さんと皆と撮った写真は、私のお気に入り

の一枚だ。今、写真を見返すと、その景色が撮りたかったのに皆が入ってきていて、何が後ろにあったのかよくわからない。だけど、そんなみんなの図々しさが心を私に許してくれていたのかと思えて、それさえ嬉しい。私もどんどん皆に心を許して、皆の優しさにつけ込んで甘えてしまった所もあったと思う。それでも変わらず、ずっと仲良くしてくれる皆に、本当に感謝しているし本当に大好きだ。皆で行ったディズニーも本当に楽しかったし、毎日のバスの移動での会話も楽しかった。ホストシスター

と別れたあとのバスで、私が隠すことなく泣いたのは、あまりにも別れが辛かったこともあるだろうけれど、それ以前に、皆を信じ切っていたからだと思う。

最終日の夜、全員が同じ部屋に集まって夜遅くまで話したことも、とても楽しかった。あんな風にくだらなことで笑いあったことすら、いつか年月を経て振り返った時、楽しくて戻れない切なくて大切な思い出になっているのだろうと思う。帰りの飛行機でも、隣だった子達とおしゃべりを沢山した。最後まで私のいたずらに付き合ってくれた。名残惜しそうな顔をした私たちを乗せた最後に全員で乗るバスは、心なしかゆっくりと進んでくれていたように感じた。

私はこの派遣の活動の中で出会った人皆が大好きだ。感謝していることを伝えるのと同じくらいに心底好きだと伝えたいホストファミリー、学校で出来た友達、心根の優しいこの9人、この派遣のために動いてくれた方々。どんな風に全員の目にこの数日間が映っていたか、本当のところを私は知ることが出来ないけれど、少なくとも、私は幸せだった。本当に、言葉ではどうしたって言い尽くせないほど、感謝している。



海外派遣の思い出

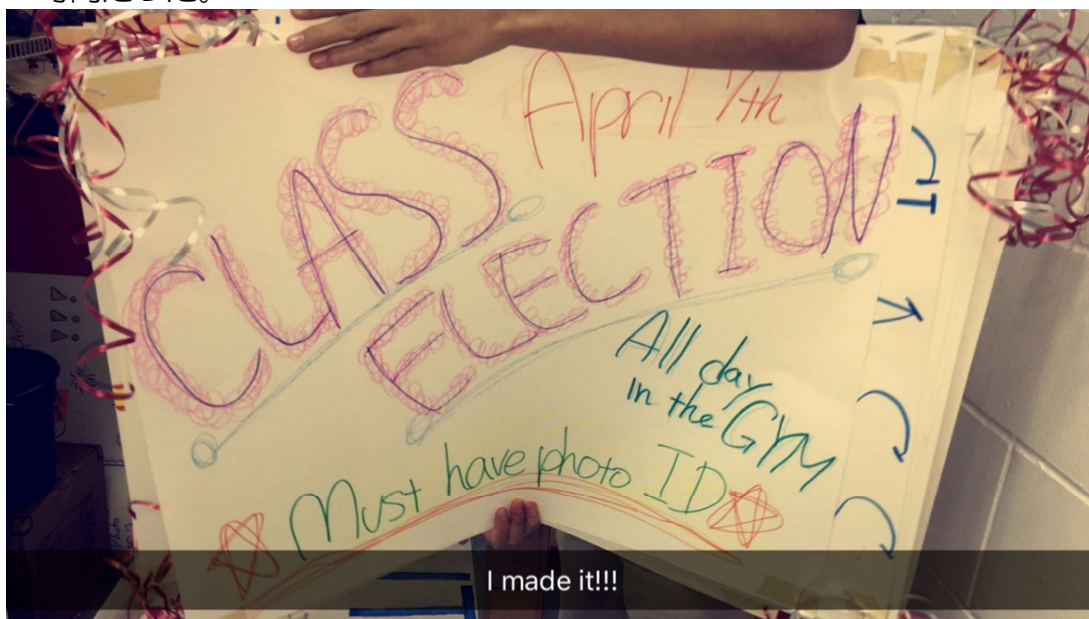
大西 さくら

海外派遣の思い出といってもいろいろあるが、特に私が大きいと思うものの一つはドクターフィップス高校での思い出だ。

現地について三日目は、丸一日シスターの取っているクラスを、シスターと一緒に回る日だった。私のシスターは陶芸、フランス語、大学生向けの言語、数学、アメリカ史、生徒会、解剖学を取っていた。お昼時間までの四限だけでシスターの友達に何人もあって名前を覚えるのが大変だったが、みんな気安く話しかけてくれて話題も提供してくれたので話も弾んだ。

数学の授業では3月14日だったのでπの日で、みんながパイだけでなくドーナツやクッキーやブラウニーなどを持ってきていて、お昼前の授業だったが食べながら、みんなとの会話を楽しむことができた。懐かしいものもいくつかあって、個人的に楽しい時間だった。お昼にはホストが持たせてくれたランチを、外でシスターの友達と一緒に食べた。私は主にフランス語の授業で一緒になった女の子と、二人で盛り上がっていた。彼女はいつもは他の友達と食べることが多いが、その友達と話すより、まだあって数時間しかたっていない私と話したほうがよっぽど楽しいから、こっちに食べに来たらと言われたときは本当にうれしかった。彼女とは今でも連絡を取っている。

アメリカ史の授業は知っている内容だったので、周りの子と軽く話したりしながら授業が聞けたのは楽しかった。また生徒会の授業では、その日は選挙に向けたポスター作りをしており、私も一枚作らせてもらった。他の授業はあまり参加できなかったが、この授業では自分からお願いして、私もポスターを作らせてもらったことで、さらに個人的にもいろいろな人と話しをできた楽しい一時間だった。



帰る日は二時間目までいられたので、三日目のフランス語の授業で仲良くなった女の子にも会えたり、学校を回る途中でいろいろな人に声をかけてもらうことができ、本当に充実した滞在期間だったと思う。もっと長い期間滞在して、もっといろいろな人と話せなかったのがすごく残念だ。

また、今回の派遣ではチームのメンバーがすごくよかったと思う。最初こそ少しよそよそしかったものの、行くときには既にだいぶ打ち解けていたし、オーストラリア滞在中で、ものすごく絆の強いチームになれたと思っている。

メンバーそれぞれに強烈な個性があって、けれどみんなで笑いあえる最高のチームになれたと思う。一週間一緒にいてワイワイしていたあとは、喪失感が意外と大きくて、今回の派遣で会った現地の人々だけではなくチームのメンバーも、私の中で大きな存在になっていたんだと痛感した。多少、年の差はあっても、それさえ笑いにしてしまうようなチームのみんなに会えたことは、何にも代えられない大きな宝物だと思う。今回の派遣に参加できたことを心から感謝している。



海外派遣の思い出

野田 周平

海外派遣中は、私にとって驚きの連続で、私はオーランドにいる時は常に幸せだった。海外派遣の内容は、他で細かくまとめられているはずなので、私はここでは私を幸せにしてくださった人たちに感謝の気持ちを書くことで、オーランドへの派遣が、いかに素晴らしいものであったかを伝えたいと思う。

まず、同じ派遣団の仲間たち。男性2人、女性8人というとても偏ったメンバーで、顔合わせの日には仲良くなれるかととても緊張していた。しかし皆、浦安市の難しい試験を通過しただけあって一人一人が強い個性を持っていて、少し話ただけで派遣中の一週間の間は信じられないほど疲れるけど、信じられないほど楽しく実りのある時間になると確信した。そして、予想どおりオーランドにいる時は常に笑顔か眠そうな顔のどちらかでした。彼らとの思い出はどのシーンを切り取っても一生忘れられない思い出で、これから先もずっと連絡を取り続けられたらいいなと思う。このメンバーに私は心の底から感謝している。



次に、ホストファミリー。ホストファミリーの言葉の一つ一つが私を笑顔にしてくれて、それをしっかり聞き取れて返事ができた時は胸が熱くなった。そして、ホストファミリーの小さな気遣い全てに感動した。ほぼ一日中生活を共にした彼らは私にとって家族で、最終日になると私のホストブラザーは BROTHER と書かれたキーホルダーを私にくれた。たった一週間の短い期間であっても彼らは私にとっても優しくしてくれて、最終的には私のことを家族の一員だと思ってくれた。何度感謝の言葉を伝えても足りないくらい、素晴らしい思い出を私に与えてくれた。今年の11月に私のホストブラザーが日本にくることになっていて、その時のホストを探しているそうだ。私の家は今の家族だけでギリギリで親から無理と言われているが、どうにかしてまた会いたい。



最後に私のオーランドへの派遣に関係した皆様。私の両親、浦安市の市役所職員の方々、Dr.phillips 高校の先生・生徒等の全ての人へ心から感謝の言葉を

贈りたい。この人たちがいなければ、私はこの派遣に参加することさえできず、オーランドのことをもっと知りたいと思うこともなかったのだと思う。だから、この人たちにも本当に感謝している。

私はこの派遣を通してたくさんを経験した。一緒に派遣された人たちと一生懸命練習したプレゼンテーション、日本からオーランドまでの合計 20 時間近いフライト、ホストファミリーや同じ派遣生と一緒にいった様々な場所、ホストファミリーとの別れの前に流した涙など、時間が経過してしまった今でも鮮明に思い出せる。そしてこれらは絶対に忘れたくない、絶対に忘れられないかけがえのない思い出だ。そして、この思い出の一つ一つがいつまでも私の中で糧として生きていくのだと思う。本当にありがとうございました。



海外派遣の思い出

上原 瑞葉

私が今回の海外派遣を通じて思い出に残っていることは主に2つある。

1つ目は日本の生活、文化と全く違うということだ。アメリカは食事、道路、お店、など全てが大きく、いつも見上げてみないといけないほどだった。学校での授業はとても自由で、授業中に立ち歩いたり、食事をしたり、携帯電話を使用するのも当たり前で日本の授業風景と大きく異なり、新鮮だった。また何か疑問があればその場で聞き、自ら参加していくという雰囲気だった。

毎時間、移動があるので短い休み時間の中で広い校舎を歩くのはすごく大変だった。

また、人と人との関わりあいも日本と違っていた。学校で見知らぬ人がドアを開けてくれたり、ホームステイ中に初対面の人に紹介されることも少なくなかった。

また、レストランでサーバーの女性の人とホストマザーが世間話をし始めたときは、本当に驚いた。日本では当たり前だと思っていたことが、アメリカではそうではない、通用しない、ということが多かった。また自分の意見やスタイルを持っている人が多く、そのような人と関わることで視野が広がった。



2つ目は、9人の派遣生と出会えたことだ。最初のころは、通っている学校や学年がそれぞれ違うことから、仲良くなれるか不安だった。

しかし、徐々に「浦安市の代表として日本の文化を伝え、アメリカの文化を学ぶ・英語力を高める」という同じ目標に向かって協力しあい、結束を高めることができた。派遣中はそれまで気づかなかった、みんなの良いところや個性を見つけることができた。

私を含め、10人それぞれ個性が強いが、みんな優しくて協調性があるので、ぶつかることなく、ずっと笑って楽しい時間を共有することができた。

もし、この海外派遣に参加していなかったら、みんなと知り合い、有意義な時間を一緒に過ごすことができなかったので、この出会いはとても貴重なものだと思う。これからもずっと仲良くしていきたいと心から思う。

一週間という短い期間ではあったが、この一週間は私にとって忘れることのできない、本当に大切な思い出になった。また、英語への関心がより高まり、もっと英語を話せるようになりたい、もっとたくさんの人とコミュニケーションをとりたいという思いが一層強くなった。

さらに、アメリカの文化を学ぶことで、日本の文化を客観的に見ることができた。まだまだ日本について知らないことが多いということも実感したので、まずは、自分自身が日本について学ばなくてはならないと思った。

これらのことは、普段の生活や、日本に住んでいるだけではわからないことなので、貴重な経験をさせてもらえたことに感謝したい。



この海外派遣によって、私の春休みは一生忘れられないものとなった。

まず、ホストファミリーの皆、特にホストシスターの Hadassa に感謝したい。私を家庭に温かく迎えてくださり、あたかも家族の一員かのように接してくださったからこそ、ホームステイだけでなく、この研修全体に対する私の緊張や不安が和らいだのだと思う。

ホームステイで印象的だったのは、日常生活のちょっとしたことだ。毎朝まだ日が昇らないうちに学校に向かうことや、生徒が自由に発言でき、失敗を恐れないような空気のある授業、そしてのんびりとした放課後。初めて会う人でも、だれでも明るくフレンドリーに接してくれること。私とさほど年齢が変わらないホストシスターや彼女の友達たちが、自分の車を自由気ままに運転していたこと。ほぼ毎日のようにピザを食べたこと。スーパーマーケットに行ったら、色々と驚いたこと。例えば、売っているものがすべて一回り大きく、量もあり、お菓子の色が私の目には鮮やかすぎるように映ったことなどだ。

ほかにもたくさんあるが、挙げはじめたらきりがない。観光客としてオーランドに行ったとしたら絶対できなかった、たくさんの発見ができたのは、この派遣で、ホームステイができたからこそだと思う。

現地での生活が少しだけでも体験できたから、アメリカの文化を身をもって感じられたのではないだろうか。

また、今回の海外派遣ではアメリカの文化を肌で感じて学ぶだけではなく、自国の文化も多少発信できたと思う。茶道道具を持っていき、ホストファミリーにお茶を点てられたのは、個人的に大きな一歩だ。

ウェルカムパーティーでもみんなと協力することによって、心配していたよりは、ずっと上手に発信できたと思う。また、ホストシスターや彼女のお友達に聞かれた、日本についての質問には大方答えられたと思う。

だが、もちろん、反省点も多い。茶道を見せることは確かにできたかもしれないが、果たしてどこまでその心が伝わったかはわからない。

また、質問に答えるときはなるべく本当のことを誇張せずに伝えようと努めたが、どうしても差を強調した方が伝わりやすらしく、差ばかりに話が進んでいってしまったことが心残りだ。興味深い共通点もたくさん見つかったのに、それを伝えきれずに終わってしまったのが悔やまれる。

しかし、今回の派遣で交流が終わるわけではないと私は信じている。ホストファミリーとは、これからも連絡を取り合っていきたいし、そうする予定だ。派遣では伝えきれなかったことを、これから手紙やメールなどで伝えていけたらいいな、と思っている。そして、今回つながりを持てた現地の人にはホストファミリーと、学校でできた友達だけかもしれないが、彼らを架け橋に、市ぐるみの交流が続いていけばいいな、と思う。

最後になってしまったが、何よりもこの派遣を思い出深いものにしたのはいっしょに行った派遣生の仲間だ。どうしてこうなってしまったのだろうと思うほど個性の強いメンバーが集まり、初日からとても楽しいおしゃべりが繰り広げられていた。今回の研修は派遣性が一人でも欠けていたら、全く違うものに


なっていたのでは、と思うほど、ひとりひとりがそれぞれ違う色や味をこの派遣に足して、みんなで行ったからこそ今回の派遣があったのだ、と思う。9人の生徒には感謝してもしきれないほどお世話になった。今回一緒に行けたみんなとのつながりは、これからもずっと大事にしていきたい。

私にこのような貴重な機会を与えてくださった浦安市の方々、そして派遣を可能にくださったすべての方々に感謝したい。この派遣は、私の一生の宝物です。



⑭英語による日本紹介 各グループの発表資料

Group A 武井 海薫、渡部 友梨香、野田 周平
 タイトル「Japanese food」

 <p><i>Japanese food</i></p> <p>Shuhe Yurika Mika</p>	<p>The Japanese food that Japanese high school students recommend</p>
 <p>1. Sushi 2. Japanese sweets 3. Japanese noodles 4. Bread</p>	<p>Bread</p> 
	

Bread machine



Kawaii bread

Japanese noodles



Japanese buckwheat noodle

Sea urchin
→ aging prevention

Green tea
→ Detoxification

Tuna
→ beautifying your skin

Soy sauce
→ deadens disease-causing germs such as the O157



Inarizushi



Temari sushi

Chirashi sushi



Thank you all very much.

Group B 武神 優子、森本 友、東浦 千苗
 タイトル「JAPANESE STATIONERY」

<p>JAPANESE STATIONERY YU MORIMOTO YUKO TAKEGAMI CHINAE HIGASHIURA</p>	<p>AN OVERVIEW OF JAPANESE STATIONERY</p>
 <p>@DAISO (A 100-YEN (APPROX. ¥ 90) SHOP)</p>	
<p>INTERESTING STATIONERY NOTEBOOKS</p> 	



THERE ARE MANY
TYPES OF
INTERESTING
STATIONERY IN JAPAN.

**CAN YOU
FIND YOUR
FAVORITE??**

**STATIONERY
DESIGN**

WHAT ARE THESE?



KAWAII かわいい



THEY ARE ERASERS!

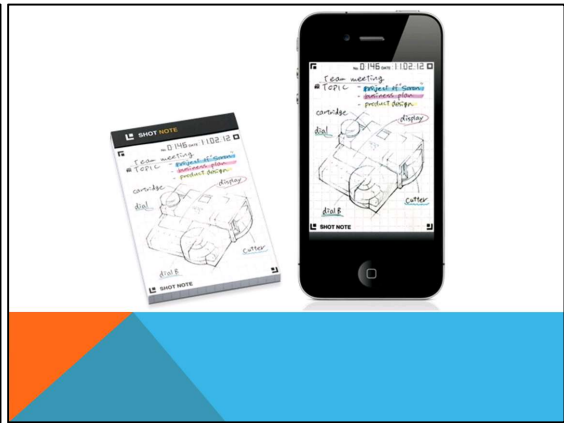
WHAT ARE THESE?



THEY ARE PENS!



LINKING WITH SMARTPHONES



Group C 八巻 祐香、浅野 瑞貴、大西 さくら、上原 瑞葉
 タイトル「JAPANESE TRADITIONAL
 HOLIDAYS AND EVENTS」

JAPANESE
 TRADITIONAL
 HOLIDAYS
 AND EVENTS



SHICHI-GO-SAN

|| || ||
7 5 3



MIZUKI



OSHOGATSU



**MONETARY
GIFT**

LIKE
THIS



NEW YEAR'S DAY



osechi



TAZUKURI
(teriyaki small dried sardines)



YAKI EBI
(Shrimp)



KAMABOKO
(Boiled fish paste)



DATEMAKI
(rolled omelet)

FUKU-BUKURO

(HAPPY BAG)



MIZUHA



DOLLS' FESTIVAL



SHIROZAKE

HINA-ARARE



HISHI-MOCHI



SAKURA (CHERRY)



CHILDREN'S DAY

KOINOBORI



KABUTO



TANABATA (STAR FESTIVAL)



⑮浦安市青少年海外派遣事業のあゆみ

回	年度	派遣期間	派遣人数
1	平成2年度	12/23～1/3	15
2	平成3年度	7/29～8/9	20
3	平成4年度	7/22～8/2	10
4	平成5年度	7/23～8/3	12
5	平成6年度	7/22～8/2	12
6	平成7年度	7/21～8/1	15
7	平成8年度	7/26～8/6	12
8	平成9年度	7/20～7/31	12
9	平成10年度	7/21～8/1	12
10	平成11年度	7/21～8/1	12
11	平成12年度	7/29～8/9	12
12	平成13年度	8/18～8/29	12
13	平成14年度	8/17～8/28	12
	平成15年度	サースの影響により、安全重視のため中止	
14	平成16年度	8/14～8/25	14
15	平成17年度	8/13～8/24	14
16	平成18年度	3/21～3/30	14
17	平成19年度	3/21～3/30	14
18	平成20年度	3/20～3/29	15
19	平成21年度	3/19～3/28	15
20	平成22年度	震災の影響により、延期	
	平成23年度	24年3/16～3/23	13
21	平成26年度	27年3/14～3/21	10
22	平成27年度	28年3/12～3/19	10
合 計			287